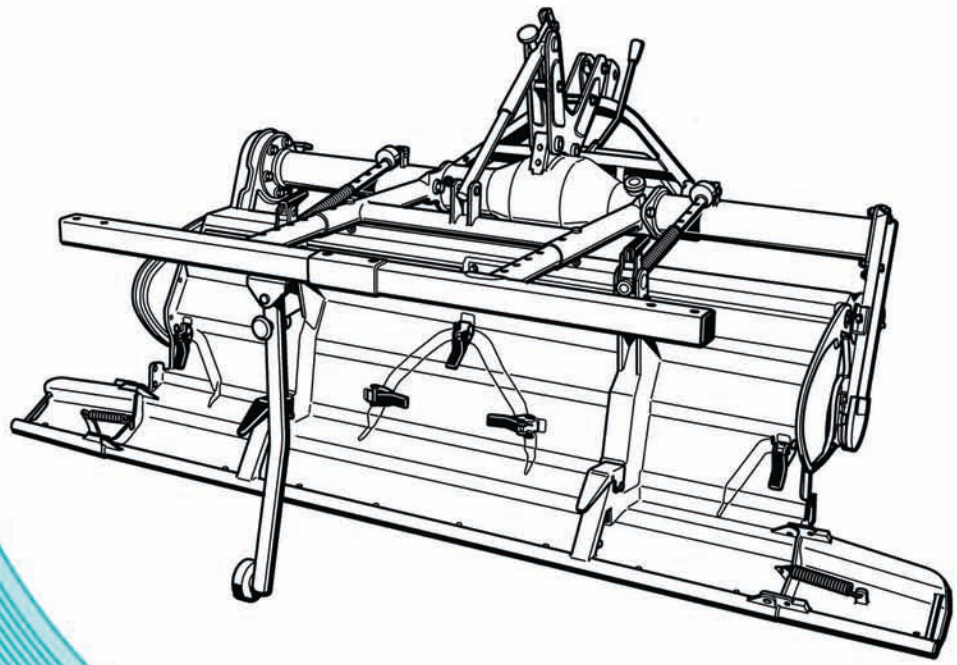
クボタロータリ

取扱説明書

RL4T・5T・6T・7T
R5T



ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が優れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げいただいた購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **危　険**	注意事項を守らないと，死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠ **警　告**	注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ **注　意**	注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。
重　要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補　足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確めのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明はRL5Tを基本とし，RL5Tと取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。

- ●サイドドライブ …… RL仕様
- ●センタドライブ …… R仕様（後２輪付）
- ●標準タイプ …… 一般向け（RL4T，RL5T，RL6T，RL7T）
- ●Bタイプ …… 後２輪付（他はスタンド付）
- ●カバータイプ
  - ・標準 …… 畝立機用長穴付
  - ・Ｖ …… Vカットカバー付
  - ・ＳＣＶ …… マッドレスカバーVカット付
- ●Hタイプ …… ハイクリアランス仕様

7A205-5752-4(カラー)

目　次

⚠安全に作業するために

⚠安全に作業するために…… ⚠-1

1.ロータリを使用する前に…… ⚠-1
2.ロータリの着脱時…… ⚠-2
3.耕うん爪の点検や交換及び調整時…… ⚠-3
4.オートハンガとスナップピンの使用時 … ⚠-4
5.運転時…… ⚠-4
6.格納時…… ⚠-6
7.廃棄物の処理について…… ⚠-7
8.⚠表示ラベルと貼付け位置…… ⚠-8
9.⚠表示ラベルの手入れ…… ⚠-8

サービスと保証について

サービスと保証について …… 1
　ご相談窓口 …… 1
　補修用部品の供給年限について …… 1

ロータリの着脱のしかた

ロータリの着脱のしかた …… 2
　取付け前の準備 …… 2
　　ロータリの取付け方法と適応型式 …… 2
　　補助ユニット …… 3
　　タイヤサイズ …… 3
　トップリンクサポートの取付け
　　（補助ユニット関連部品） …… 4
　　取付け方 …… 4
　　取外し方 …… 4
　トラクタへの装着 …… 5
　　装着前の準備 …… 5
　　オート金具の取付け …… 5
　　ロータリ着脱姿勢の調整 …… 6
　　ロータリの着脱位置調整 …… 7
　　取付け方 …… 7
　ロータリの取外し方 …… 11
　ロータリの保管と移動 …… 12

ロータリの上手な使い方

ロータリの上手な使い方 …… 13
　適応作業速度 …… 13
　　ロータリ落下速度の調整 …… 14
　なた爪の取付け方 …… 14
　　サイドドライブ仕様[RL仕様]…… 15
　　センタドライブ仕様[R仕様] …… 18
　　均平耕法 …… 21
　　１つ盛り耕法 …… 22
　　２つ盛り耕法 …… 22
　マッドレスロータリの取扱い …… 23

ロータリの調整

ロータリの調整 …… 24
　ロータリカバーの調整 …… 24
　　フラップカバーの使用法 …… 24
　　フラップカバーの取外し方 …… 25
　　フラップカバーの取付け方 …… 25
　　補助カバーR・Lの取外し方 …… 26
　　Vカバーの取外し方 …… 26
　　防土カバーの上手な使い方
　　（別売オプション：RL仕様） …… 26
　　フロントカバーの使用法 …… 27
　耕深の調整(後２輪仕様) …… 28
　後２輪の調整(後２輪仕様) …… 28
　　後２輪ホルダの前後調整 …… 28
　　上下調整 …… 29
　　左右調整[R仕様] …… 29
　スプリングロックの調整 …… 29
　オートハンガの調整 …… 30
　サイドカバーの調整 …… 31
　畝立機の取付け(別売アタッチメント) …… 32
　　V，SCVカバーの場合 …… 32
　　標準カバーの場合 …… 33
　片培土機の取付け …… 33
　　取付け方 …… 33
　逆転PTOの使用方法 …… 34
　爪軸交換のしかた …… 35
　普通爪の使用 …… 36

作業前の点検について(日常点検)

作業前の点検について(日常点検) …… 37
点検箇所 …… 37
点検は次の順序で実施してください。 … 37
点検のしかた …… 37
ユニバーサルジョイントの
ロックピンの確認 …… 37

ロータリの簡単な手入れと処置

ロータリの簡単な手入れと処置 …… 38
廃棄物の処理について …… 38
定期点検箇所一覧表 …… 38
各部の油量点検と交換 …… 39
ギヤーケース[RL仕様] …… 39
チェーンケース[RL仕様] …… 40
ロータリケース[R仕様] …… 40
グリースの補給と注油 …… 41
ユニバーサルジョイント …… 41
アジャスタ(後２輪調整ネジ部) …… 41
ホルダ(ジョイント)[スーパージョイント付き],
ロータリ入力軸 …… 42
後２輪のグリースニップル部 …… 42
オートヒッチフレーム,
トップリンク各回動部 …… 42
オートハンガしゅう動，回動部 …… 42
つきま部のU金具 …… 42
フロントカバー回動部 …… 42
爪軸ベアリングケース[RL仕様] …… 43
シールの組換え …… 43

付　表

付表 …… 44
主要諸元 …… 44
標準ロータリ …… 44
ハイクリアランス仕様 …… 45
標準ロータリ・ハイクリアランス仕様 … 45
標準付属品 …… 46
補助ユニット一覧表 …… 46
アタッチメント一覧表 …… 47
兼用品 …… 48
推奨オイル・グリース一覧表 …… 50
ギヤーオイル90番 …… 50
グリース …… 50
主な消耗部品一覧表 …… 51

⚠ 安全に作業するために　　必ず読んでください。

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1．ロータリを使用する前に

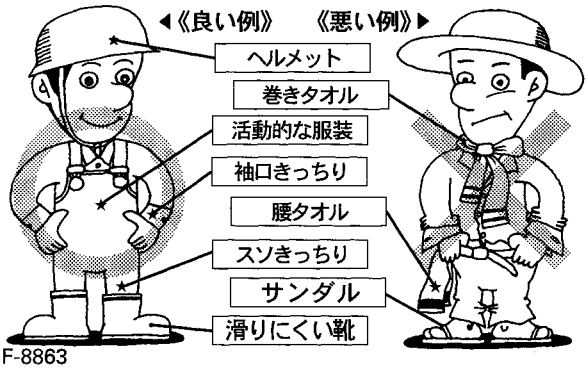
1. ロータリを使用する前に，必ずこの取扱説明書とトラクタ本機の取扱説明書，及び機械に貼ってある⚠表示ラベルをよく読み，理解した上で作業してください。
2. ロータリを他人に貸すとき，また他人に作業を依頼するときは，事前に操作のしかたを教え，本書を読ませてください。
3. 本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には，絶対に作業させないでください。

F-8822改

---

4. ダブダブの衣服やかさばった衣服を着用しないでください。
   回転部分や操縦装置に引掛かり事故の原因になります。
   安全のため，ヘルメット，安全靴，保護めがねや手袋などを必要に応じて使ってください。

作業時の服装



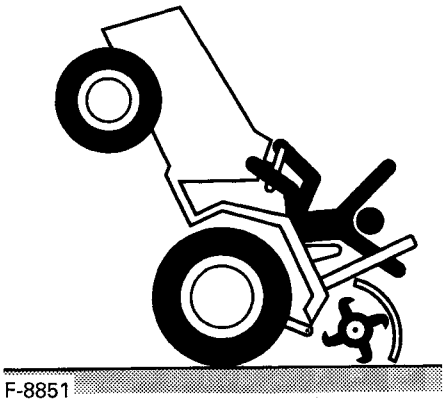
F-8863

2．ロータリの着脱時

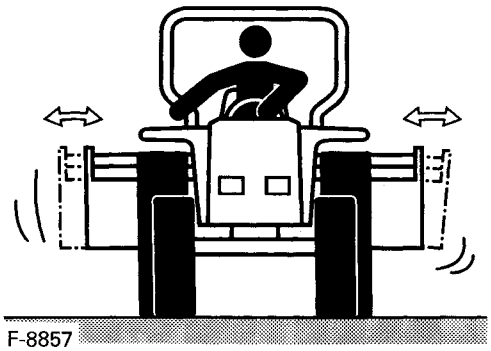
1. PTOを中立にして平たんな場所で行なってください。
2. トラクタとロータリの間に立たない，また立たせないでください。
   挟まれるおそれがあります。

F-8848

3. 二人作業の場合はお互いに合図しあい，注意して作業してください。
4. 3点リンクの止めピンやユニバーサルジョイントのロックピンが，確実にセットされていることを確認してください。
5. 装着するトラクタによってそれぞれ前後バランスが異なりますので，前部ウエイトの指示がある場合は必ず装着してください。
   前輪が浮上がり事故の原因になります。


F-8851

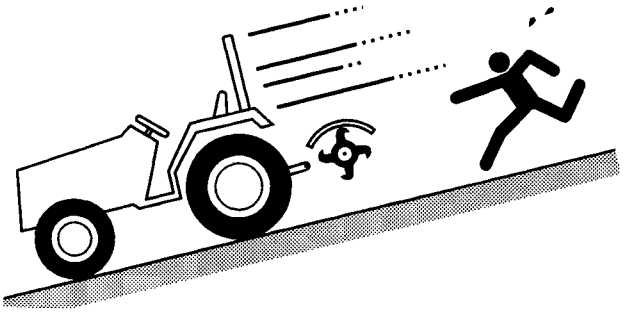
6. ロアーリンクのチェックチェーンは，ロータリが左右に2～3cm動く程度に調節してください。
   走行時，ロータリが揺れてバランスをくずし事故の原因になります。


F-8857

7. 着脱時，フロントスタンド【サイドドライブ】とリヤスタンド又は後2輪を必ずセットしてください。
   ロータリが倒れ，事故の原因になります。

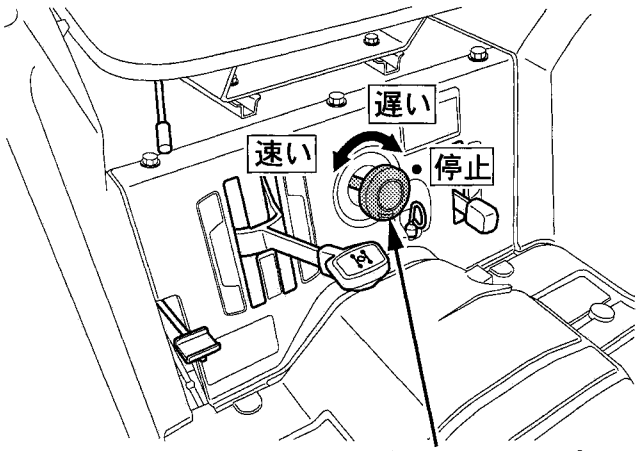
3．耕うん爪の点検や交換及び調整時

1. トラクタを平たんな場所に置いてください。
2. 駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止してください。
   トラクタが動き出すおそれがあります。
3. ロータリカバー２は，オートハンガ，またはスナップピンを使用し，確実に固定してください。
4. オートハンガのクリップを解除位置にした場合，ただちにロータリカバー２を下ろしてください。

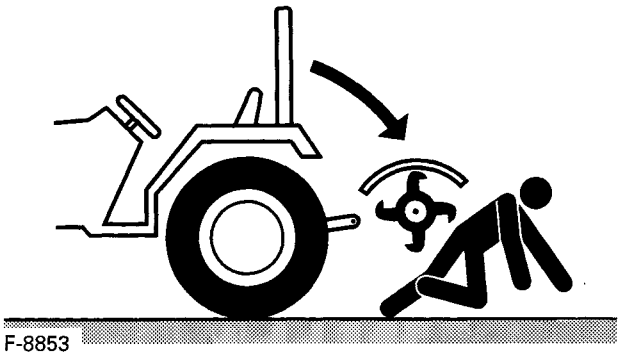


F-8858

5. ロータリを上げた状態で点検整備を行なう場合，必ず落下調整グリップでロータリが落下しないようロック（停止）してください。ロック（停止）すると共に適切なジャッキ又はブロックで歯止めをし、落下防止を行なってください。



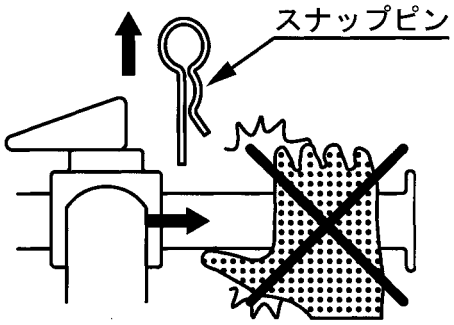
落下速度調整グリップ



F-8853

4．オートハンガとスナップピンの使用時

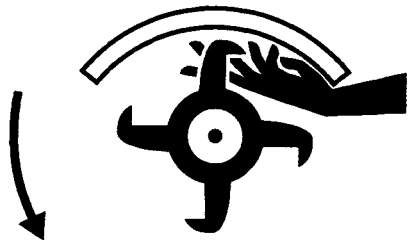
1. オートハンガとスナップピンの操作は，傷害事故を起こすおそれがありますので，平坦な広い場所で行ない，エンジンを止めて，駐車ブレーキをかけてから行なってください。
2. オートハンガ，およびスナップピンを操作する時は，ロッドに手を掛けないでください。
3. スナップピンを操作する時は，ロータリカバー２を手で支えて行なってください。
4. オートハンガ，スナップピンとも，保持を解除する時は，ロータリの下や周辺の安全確認を行なってください。
5. オートハンガのクリップを解除位置にした場合、ただちにロータリカバー２を下ろしてください。



1AHAAACAP1380

5．運転時

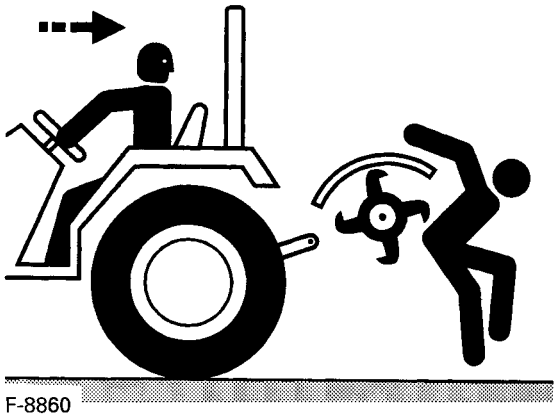
1. 安全カバー類を外した状態でロータリを使用しないでください。また紛失したり損傷した場合，交換してください。
   巻込まれや切傷事故の原因になります。
2. ユニバーサルジョイント，爪軸など回転部分には近づかないでください。
   裂傷・巻込まれなど，事故のおそれがあります。


F-8849

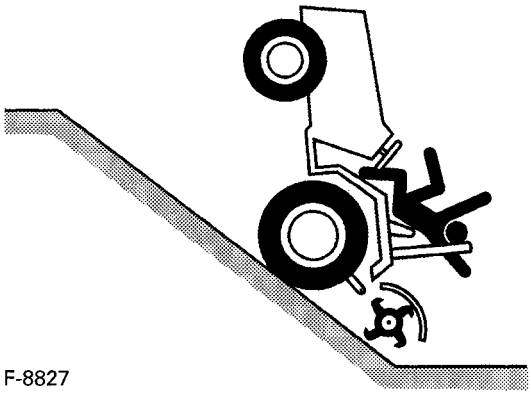
3. ロータリの上に人を乗せないでください。

F-8859

4. 必ず座席に座ってロータリ作業を行なってください。作業中，トラクタの飛降り，飛乗りは重大事故につながります。
5. ロータリを持上げ，バック及び急旋回するときは，周囲の安全確認を行なってください。

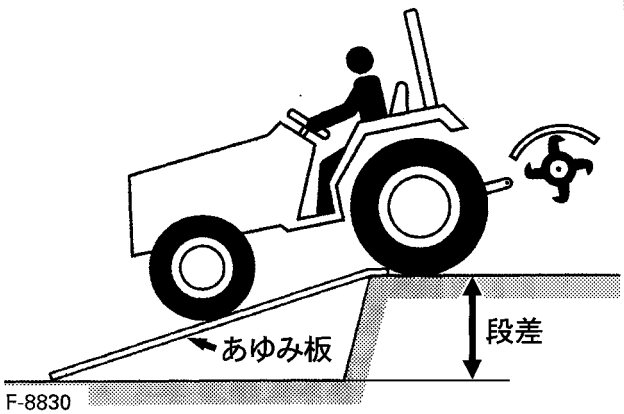

F-8860

6. 傾斜地やあぜを登るときは，転倒防止のためロータリを下げて前輪の浮上がりを防いでください。


F-8827

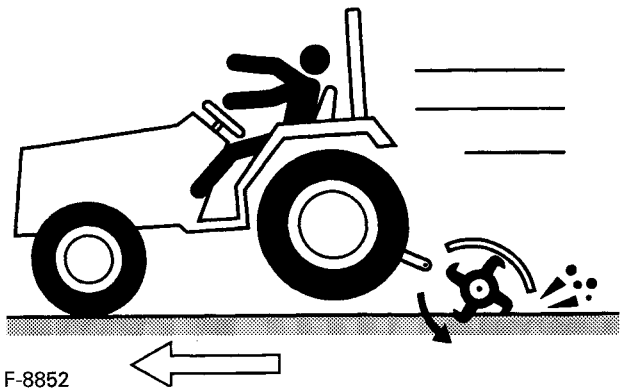
7. ほ場の出入りなどで，高低差の大きい急傾斜の登り降りや溝越えが必要な場合，あゆみ板を使用し，確実に固定してから低速で行なってください。

＊あゆみ板は段差の４倍以上の長さのものを使用してください。



F-8830

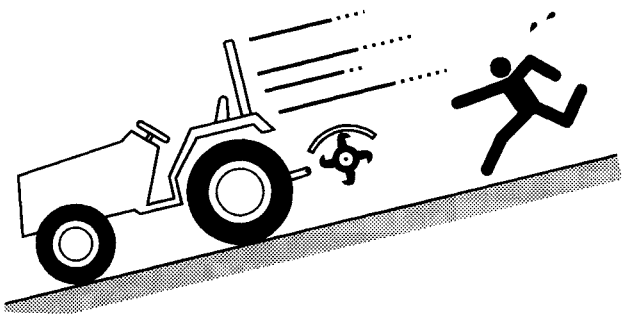
8. 耕うん中，硬いほ場でトラクタが前に飛出した場合，すぐクラッチを切りブレーキを踏んでください。次により遅い車速に変速し，爪軸回転を上げて飛出しが起こらないように作業してください。
   2輪駆動，4輪駆動の切換え可能なトラクタは，4輪駆動にしてください。

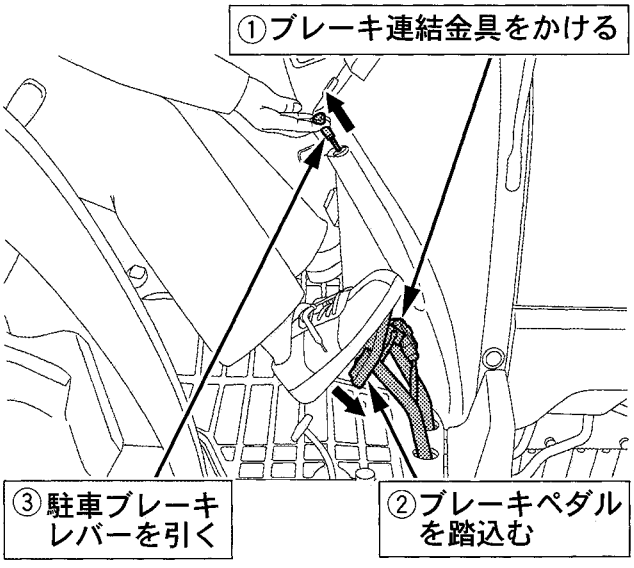

F-8852

9. ロータリを装着した状態では，道路運送車両法の保安基準を満足しませんので，道路走行することはできません。

6．格納時

1. トラクタを平たんな場所に置いてください。
2. ロータリを下げ，地面に接地させてください。ロータリが落下するおそれがあります。
3. 駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止してください。
   トラクタが動き出すおそれがあります。
4. ロータリに寄りかかったり，乗ったりしないでください。
   ロータリが転倒するおそれがあります。


F-8858



7．廃棄物の処理について

1. 廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。

＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。

＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。

＊ 廃油，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

1BJABAAAP018B

8. ⚠表示ラベルと貼付け位置

(1)品番　7C705-5646-2

⚠ 注　意

傷害事故防止のため取扱説明書を読んで正しく取扱うこと

着脱時
- PTOを中立にして、平坦な場所で行うこと
- トラクタとロータリの間に立たないこと
- 三点リンクまたは二点リンクの止ピンやユニバーサルジョイントのロックピンがはずれていないか確認すること

爪の交換および点検・調整時
- 平坦な場所で駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止すること
- ロータリ落下防止のため、トラクタの油圧ロックをすること

作業時
- ロータリの上に人を乗せないこと
- バックや旋回のときは、周囲の安全を確認すること
- 傾斜地や畦を登るときはロータリを下げて、前上がりを防ぐこと

(2)品番　7C705-5881-1

⚠ 警　告

ロータリの回転部に接触すると、巻込まれやケガをする恐れがあるので回転部に近づかないこと

⚠ 警　告

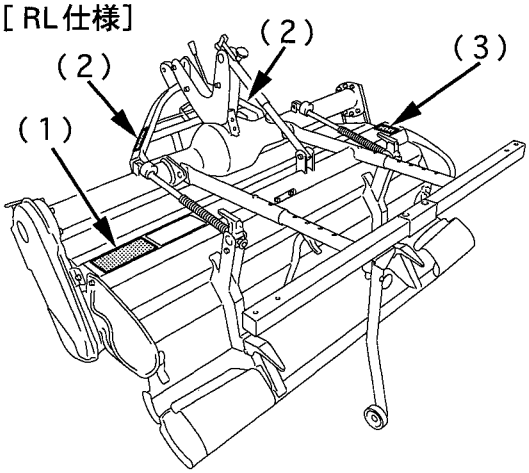
ユニバーサルジョイントに接触すると、巻き込まれやケガをする恐れがあるので近づかないこと

(3)品番　7F712-5613-1

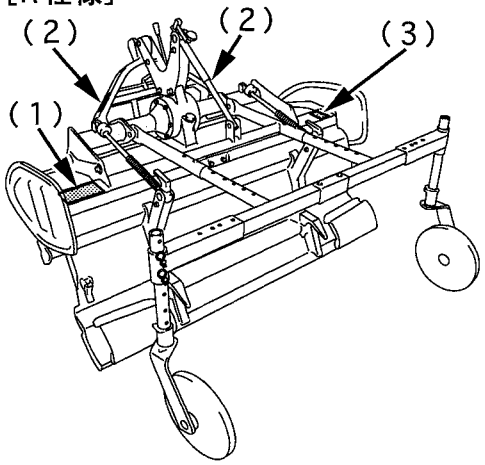
⚠ 警　告

ロータリの回転部に接触すると、巻込まれやケガをする恐れがあるので回転部に近づかないこと

[RL仕様]



[R仕様]



9. ⚠表示ラベルの手入れ

1. ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
   もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
2. 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
3. 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
4. 新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。
5. ラベルが貼付けられている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

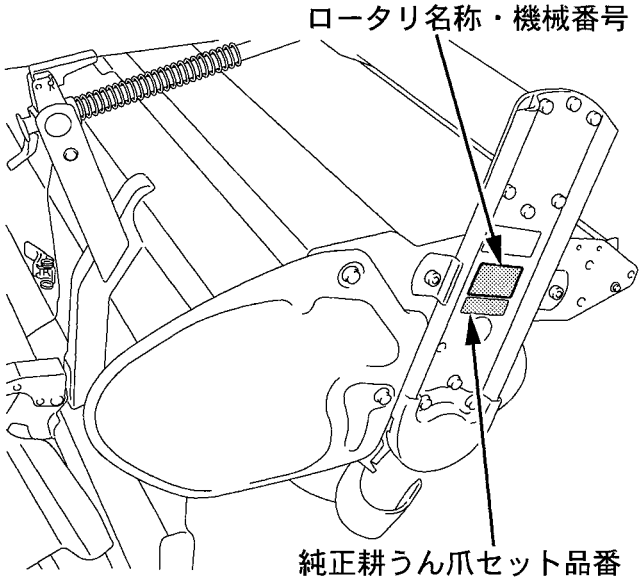
■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**[ご相談窓口]**を設けておりますので，お気軽にご相談ください。
その際，ロータリ名称と機械番号をあわせてご連絡ください。
なお部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

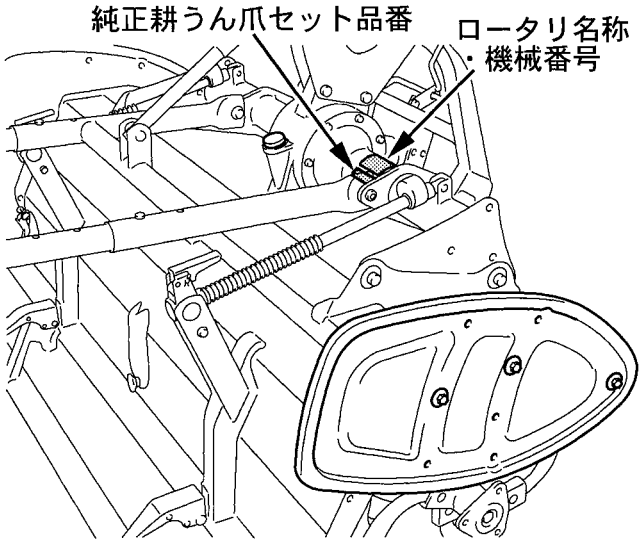
注　意

＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

[RL仕様]



[R仕様]



■補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後12年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

補　足

＊純正耕うん爪セット品番をロータリ名称・機械番号を記したラベルの下に記載しております。部品交換の際にご活用ください。

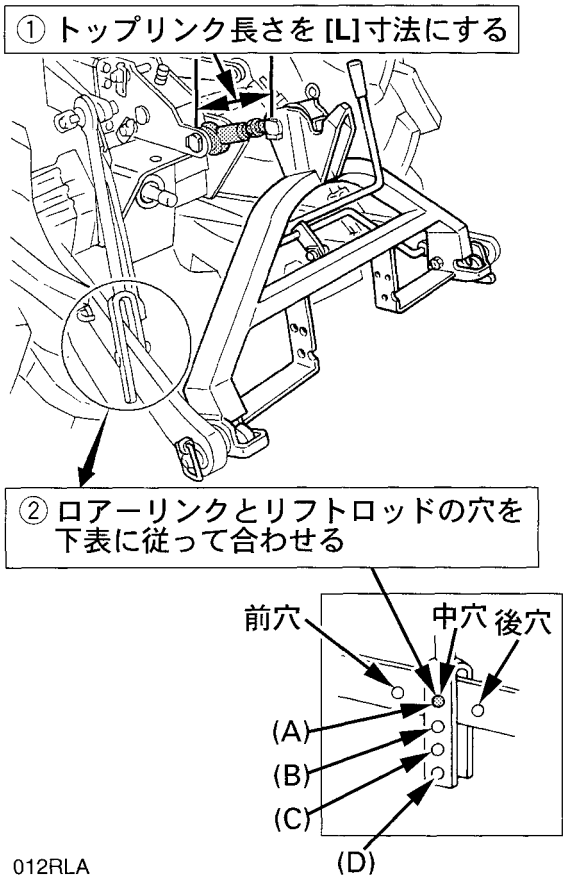
ロータリの着脱のしかた

取付け前の準備

1. 補助ユニット(トップリンクサポート，トップリンクなど)が，装着されているかを確認してください。装着されていないときは，**[トップリンクサポートの取付け]**の項を参照の上，装着してください。
2. 装着するトラクタにより，補助ユニットの種類及びトップリンク長さが異なりますので，右図と次ページの表又はトップリンクサポートに貼付けてあるラベルを確認の上，点検・調整してください。

注 意

＊補助ユニットの種類，トップリンク長さ，ロアーリンク穴位置，リフトロッド穴位置を間違うと，ジョイント抜けやトップリンクの破損などによる傷害事故のおそれがあります。
＊前部ウエイトの指示がある場合，トラクタに必ず取付けてください。トラクタの前輪が浮上がり事故の原因になります。



■ロータリの取付け方法と適応型式

下表は一般的な組合わせを示しています。表に記載されていないトラクタの派生機種については，トラクタ側の取扱説明書に記載している場合があります。

トラクタ型式		KT20 (J)	KT22 (J) / KT24	KT24J	KT27	KT27J / KT30 (J)	KT20PC / KT24PC / KT27PC	KT20-HN-8 / KT24-HN / KT30-HN	KT24HT
ロータリ型式 / 取付け方法		RL4T			—			RL4TH (KT30-HN除く)	
		RL5T，RL6T						RL5TH	
		—	RL7T					RL6TH	
		R5T						RL7TH，R5TH	
補助ユニット	スーパージョイント付	UKT20Q-6RF		UKT24JQ-6RF	UKT30Q-6RF			—	
	スーパージョイント無	UKT20-6RF		UKT24J-6RF	UKT30-6RF			UKT20H-6RF	
トップリンク長さ[L]寸法 (mm)		190		220				305	
リフトロッド左，右の取付け穴		(A)		(B)	(B)		(A)	(B)	(A)
ロアーリンク取付け穴		中穴		中穴	中穴		前穴	前穴	

◎トップリンク長さ[L]寸法は装着時の目安とし，異音(ガラガラ音)が出る場合は±５㎜の範囲で調節してください。

補 足

＊**KT27J・30 (J)・20PC・24PC・27PC 仕様**のロアーリンクには**[中穴]**がありません。

取付け前の準備

■補助ユニット

製品名	コードNo.
UKT20-6RF	7A200-01000
UKT20Q-6RF	7A200-02000
UKT24J-6RF	7A200-03000
UKT24JQ-6RF	7A200-04000
UKT30-6RF	7A200-05000
UKT30Q-6RF	7A200-06000
UKT20H-6RF	7A200-07000

■タイヤサイズ

	標準		J仕様	
	前輪タイヤ	後輪タイヤ	前輪タイヤ	後輪タイヤ
KT20	6-12	8.3-22	6-14	8.3-24
KT22	6-14	8.3-24	6-14	9.5-22
KT24	6-14	9.5-22	6-14	9.5-24
KT27	6-14	9.5-24	7-14	11.2-24
KT30	7-14	11.2-24	7-16	11.2-26

ハイクリ仕様	前輪タイヤ	後輪タイヤ
KT20-HN-8	6-14	8.3-26
KT24-HN	7-14	9.5-26
KT30-HN	7-14	11.2-24
KT24-HT	6-14	9.5-22

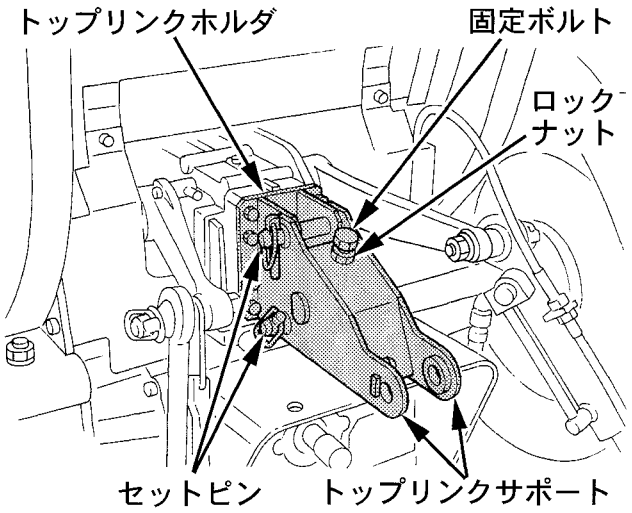
トップリンクサポートの取付け（補助ユニット関連部品）

■取付け方

1. トップリンクホルダの上及び下穴に，トップリンクサポートを合せ，セットピンで取付けます。

補　足

＊セットピンを取付けるときは，必ず固定ボルトをゆるめてから行なってください。



2. トップリンクサポートを取付けたのち，必ず固定ボルトは確実に締付けて，ロックナットでロックしてください。

■取外し方

取付け順序の逆に行なってください。

トラクタへの装着

注　意

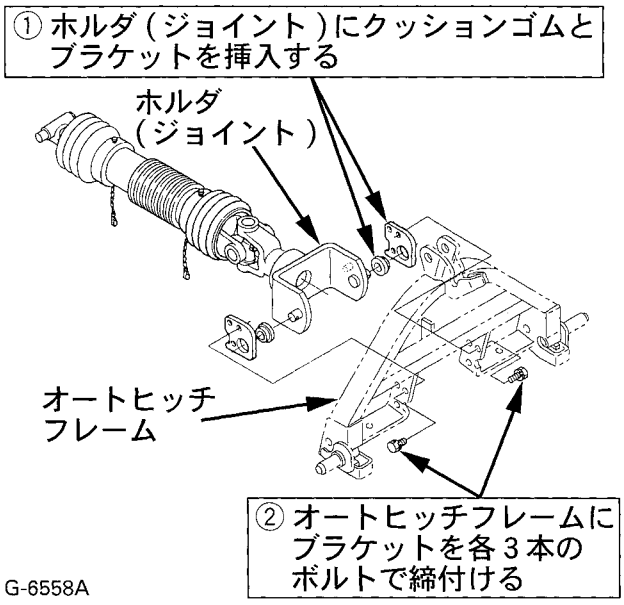
＊ロータリの取付け・取外しは，PTO変速レバーを中立にし平たんな場所で行なってください。
＊トラクタとロータリの間には立たないでください。はさまれるおそれがあります。

重　要

＊安全カバー回転止め鎖で，ユニバーサルジョイントを吊らないでください。

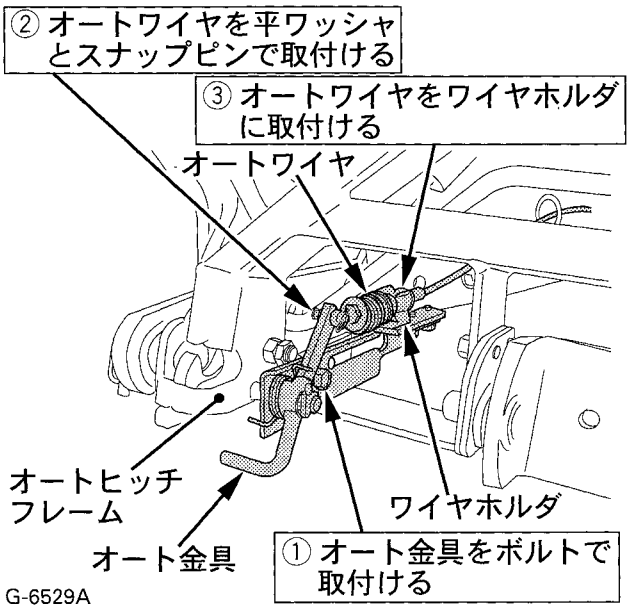
■装着前の準備

◆スーパージョイントの組付け

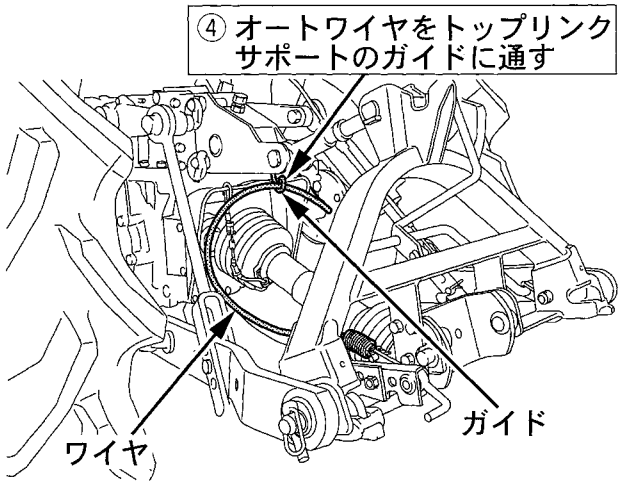


G-6558A

■オート金具の取付け



G-6529A

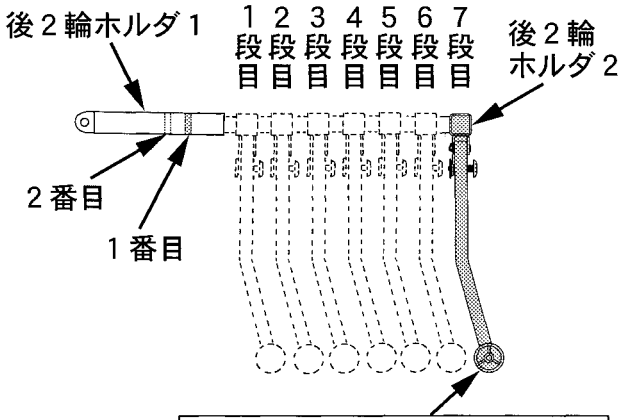


■ロータリ着脱姿勢の調整

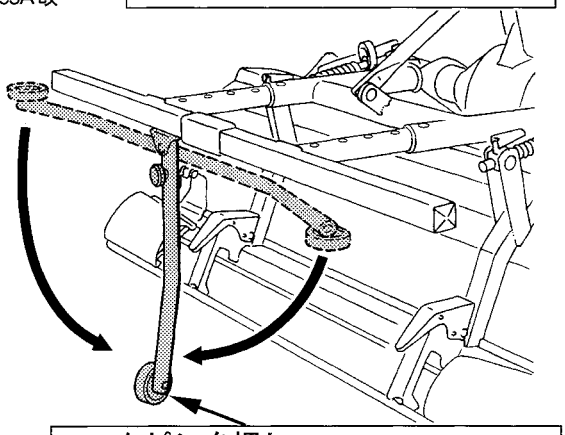
〔スタンド仕様の場合〕

◆リヤスタンドの前後位置調整

後２輪ホルダ１の後ろから１番目の穴と，後２輪ホルダ２の後ろから７番目の穴を合せてください。

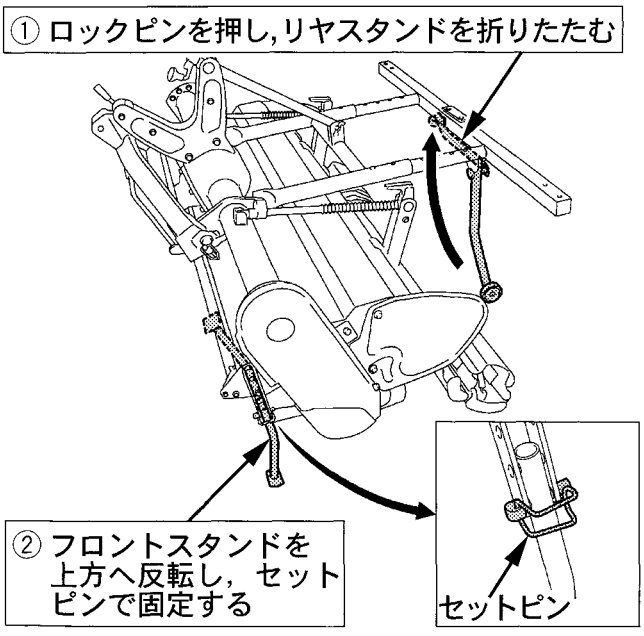


G-5553A改



G-6530A

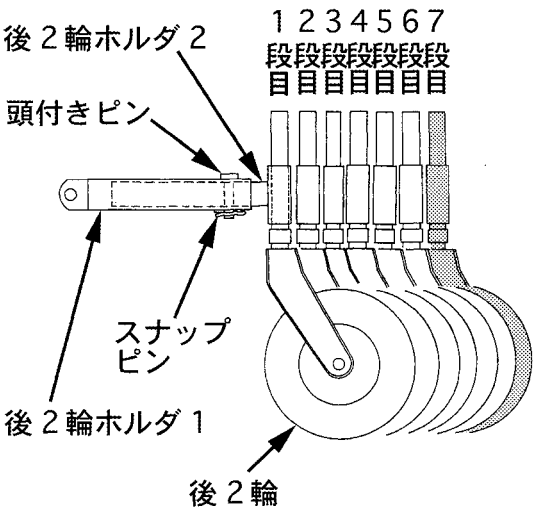
◆フロントスタンドのセット位置



〔後２輪仕様の場合〕

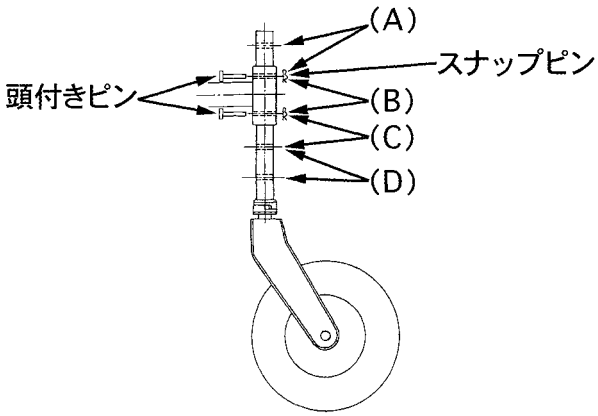
◆後２輪の前後位置調整

後２輪ホルダ１の後ろから１番目の穴と後２輪ホルダ２の後ろから７番目の穴をあわせてください。



◆後２輪の上下調整

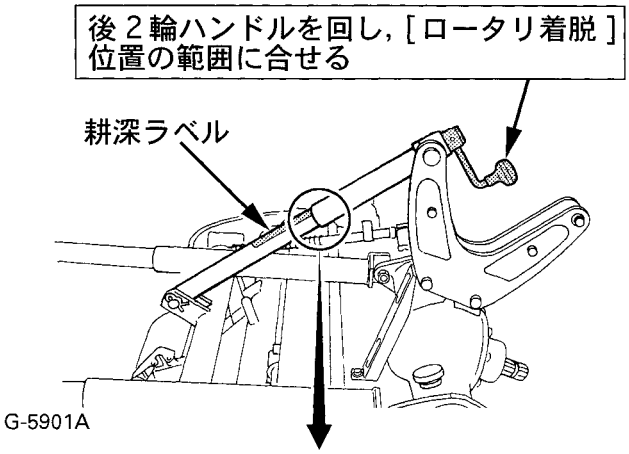
上下位置は(B)の位置にセットしてください。
(ロングカット爪がセットされている場合は，(A)の位置にセットしてください。)

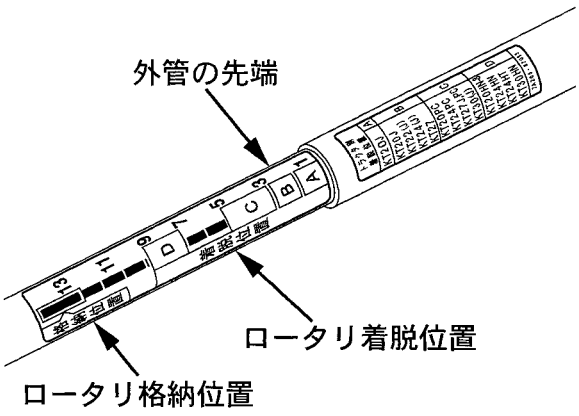


■ロータリの着脱位置調整

重　要

＊後２輪ハンドルは操作後，図の位置にセットしてください。





着脱位置記号	トラクタ型式
A	KT20
B	KT20J・KT22・KT22J KT24・KT24J・KT27
C	KT27J・KT30・KT30J KT20PC・KT24PC・KT27PC
D	KT20-HN-8・KT24-HN KT24-HT・KT30-HN

＊ロータリの着脱は，フラップカバーを装着して行なってください。

＊ロータリ単体で保管する場合は，必ずフロントスタンドを下げ位置にセットしてください。

[スタンド仕様のみ]

＊耕うん時は，リヤスタンドは折りたたみ，フロントスタンドは上方反転して，セットピンで固定してください。

■取付け方

注　意

ロータリを取付けるときは，
＊トラクタを平たんな広い場所に置きます。
＊エンジンを止め，駐車ブレーキを掛けます。

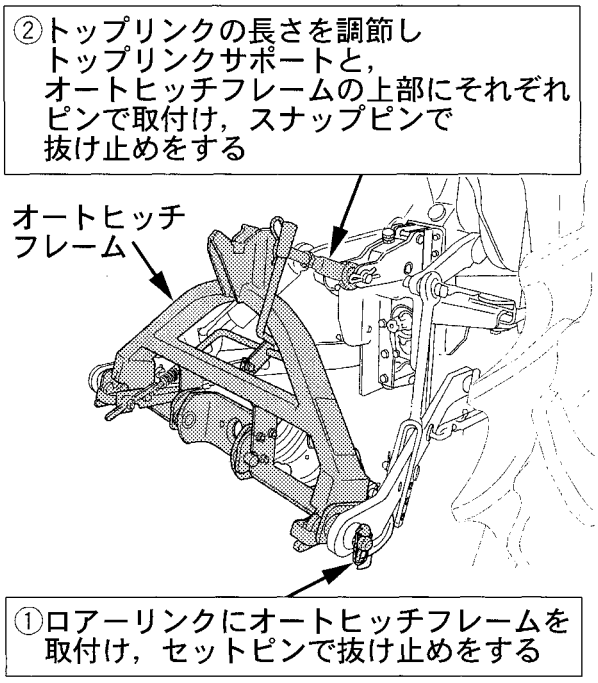
1. ロアーリンクとリフトロッド取付け位置を確認してください。
   もし，異なっている場合は**[取付け前の準備]**の項に従って取付けてください。

注　意

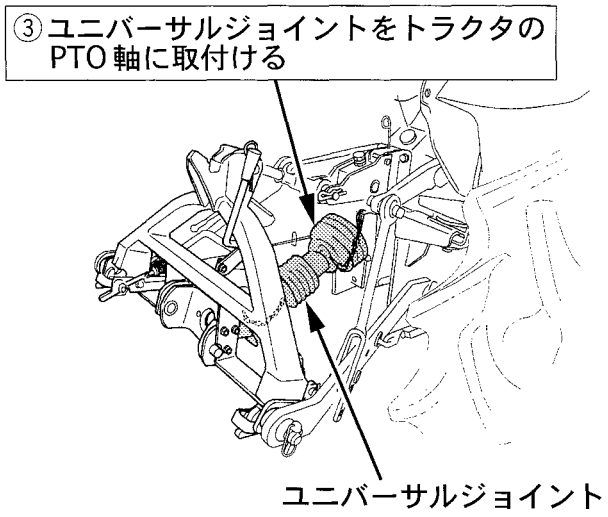
＊ロアーリンクとリフトロッドの取付け穴位置を間違うと，ユニバーサルジョイントが破損し傷害事故を引起すおそれがあります。
取付け穴位置を再確認してください。

重　要

＊トップリンクは径の太い方を必ずトラクタ側に取付けてください。

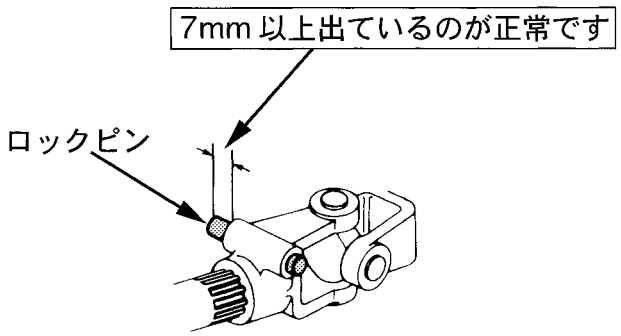


[スーパージョイント仕様]



注　意

＊ユニバーサルジョイントを確実にセットしないと，抜けるおそれがあります。ロックピンの頭が 7 mm以上出ているか確認してください。

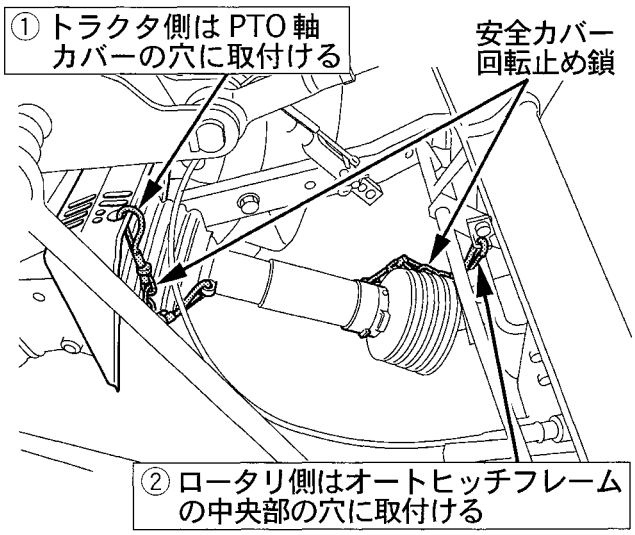


G-1574A

2. ユニバーサルジョイントの安全カバー回転止め鎖を取付けてください。

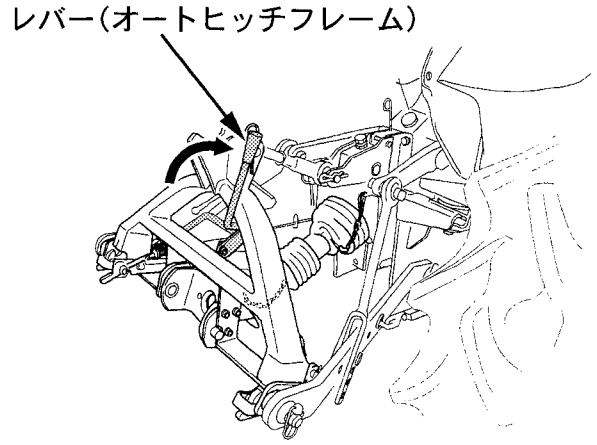
重　要

＊安全カバー回転止め鎖で，ユニバーサルジョイントを吊らないでください。

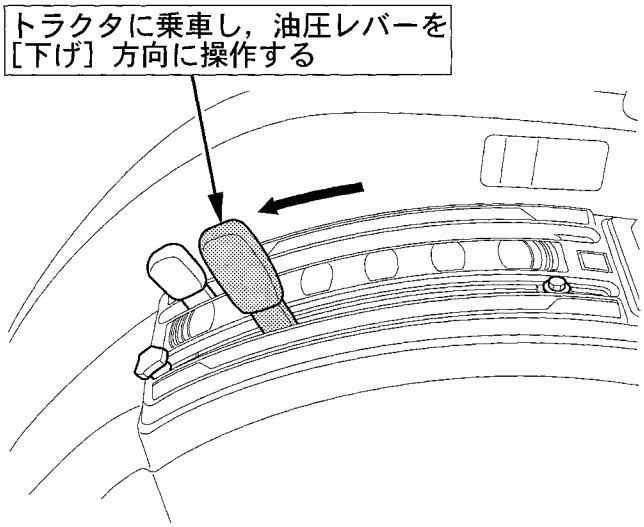


3. ロータリの着脱姿勢を確認してください。(**[トラクタへの装着]**の**[ロータリ着脱姿勢の調整]**の項を参照)

4. フラップカバーを装着しロータリカバー２を最下げの位置にセットしてください。(**[オートハンガの調整]**の項を参照)
5. レバー(オートヒッチフレーム)を下図のロック位置にセットしてください。

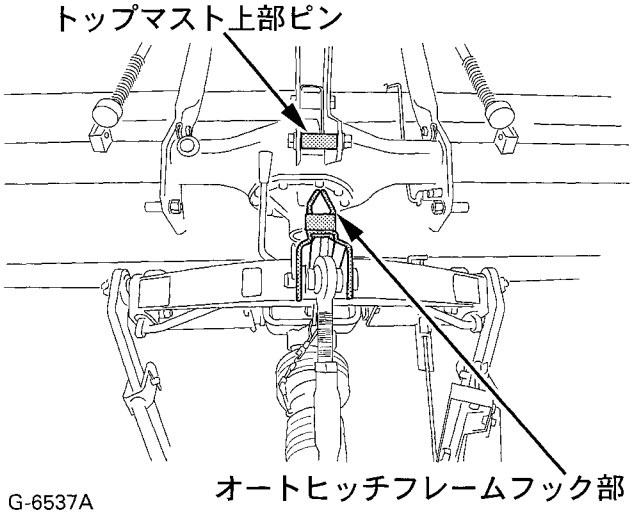


6. オートヒッチフレームを降ろしてください。



7. オートヒッチフレームのフック部先端が，トップマスト上部ピンのやや下にくるように，油圧レバーを操作しながらゆっくりバックしてください。

8. 油圧レバーをゆっくり**[上げ]**方向に操作し，オートヒッチフレームのフック部がトップマスト上部ピンに確実に引掛ったことを確認してから，ロータリを吊上げてください。

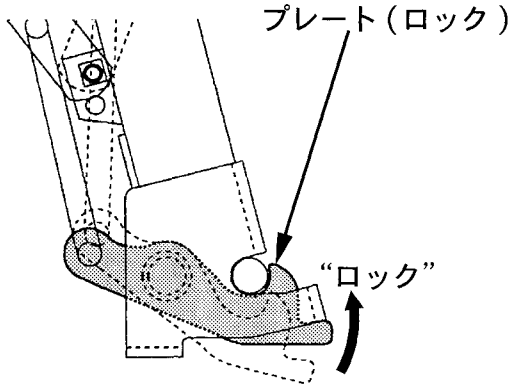


G-6537A

9. オートヒッチフレームでロータリを吊上げると，ロータリは自動的にオートヒッチフレームに**[ロック]**されます。

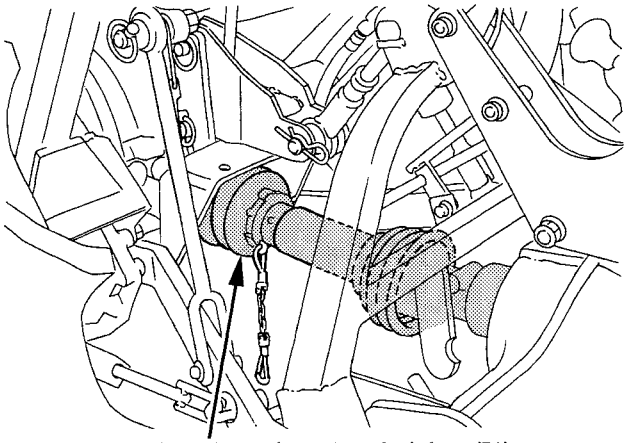
注 意

＊プレート(ロック)が確実にロック状態にあるか，確認してください。
ロックしていないと，ロータリが脱落するおそれがあります。



G-4140A改

10. **[スーパージョイント無し]**
エンジンを止め駐車ブレーキをかけてから，ユニバーサルジョイントを取付けてください。
(1) ユニバーサルジョイントのオス側ロックピンを指で押えて，トラクタPTO軸の横溝を越すまで差込んでください。
(2) 次にメス側をロータリの軸に差込んで，ロックピンでロックしてください。
(3) PTO軸側を手前に引き，ロックピンを溝に確実に入れてください。

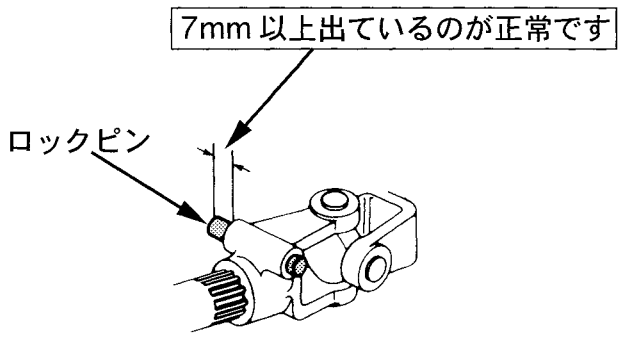

ユニバーサルジョイント(オス側)

重 要

＊ユニバーサルジョイントの取付けは，必ずオス側をトラクタ側に，メス側をロータリ側に，取付けてください。

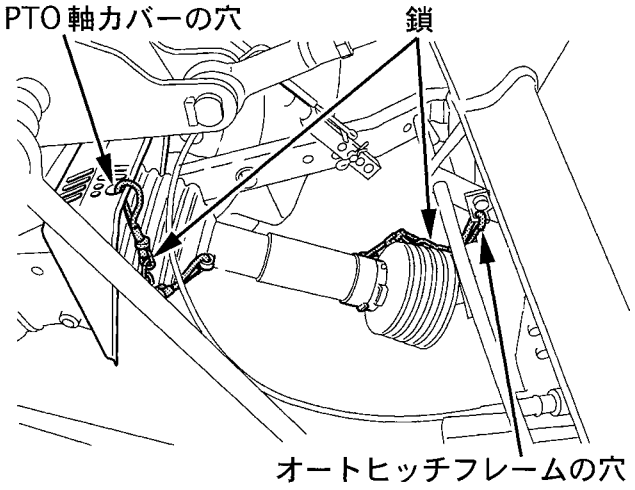
注 意

＊ユニバーサルジョイントを確実にセットしないと，抜けるおそれがあります。ロックピンの頭が7㎜以上出ているか確認してください。

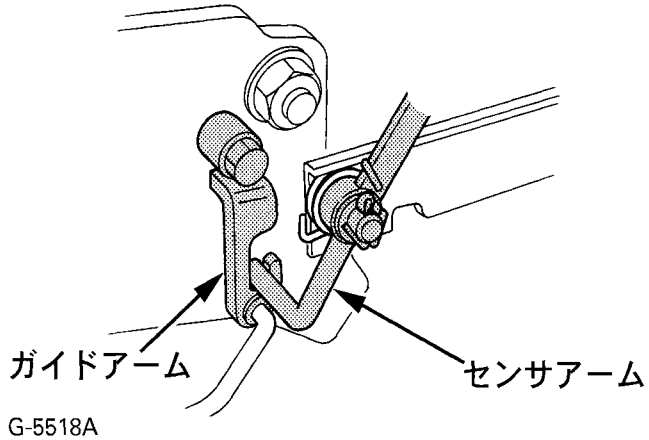


G-1574A

11. **[スーパージョイント付き]**
安全カバー回転止め鎖を取付けてください。トラクタ側の鎖は，PTO軸カバーの穴に，ロータリ側はオートヒッチフレームの中央部の穴に，取付けてください。



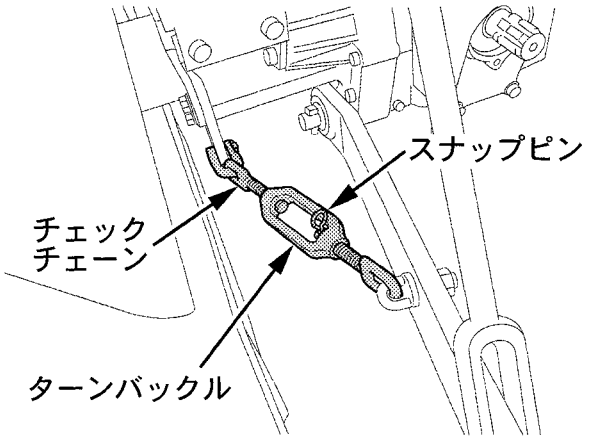
12. オート金具のセンサアームがガイドアームに確実にセットされているか確認してください。



G-5518A

トラクタへの装着

13. チェックチェーンを張ってください。
(1) エンジンを止め駐車ブレーキをかけます。
(2) ユニバーサルジョイントが上から見て一直線になるように，チェックチェーンを左右均等に保ちます。(ロータリが横方向に2～3cm動く程度)
(3) ターンバックルで調整し，スナップピンでロックして，ロータリの横振れを制限してください。



補　足

＊ロータリを持上げてエンジンを止めます。
駐車ブレーキをかけてからPTO変速レバーを**[中立]**にします。
ユニバーサルジョイントが手で軽く回るかを，確認してください。

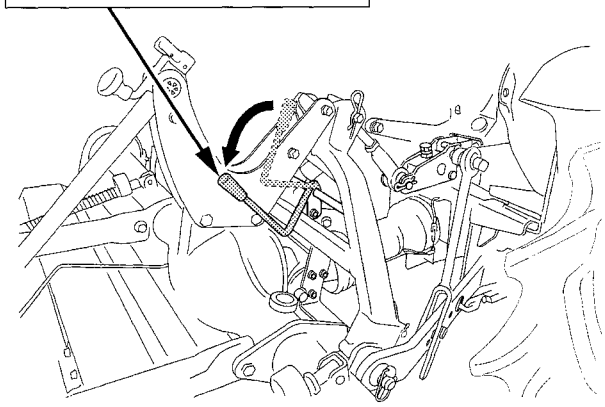
ロータリの取外し方

注　意

傷害事故の防止のため，ロータリ取外し時は次のことを守ってください。
＊PTOを中立にし，平たんな場所で行なう。
＊ロータリの着脱時は，必ずスタンド又は後2輪及びフラップカバーを取付ける。
＊ロータリに寄りかかったり，乗ったりしない。

1. ロータリカバー2を最下げの位置にセットしてください。（**[オートハンガの調整]**の項を参照）
2. ロータリの着脱姿勢を確認してください。（**[トラクタへの装着]**の**[ロータリ着脱姿勢の調整]**の項を参照）
3. 必ずロータリを地面より上げた状態にしてレバーを解除の位置にしてください。

レバーを[解除]位置にする

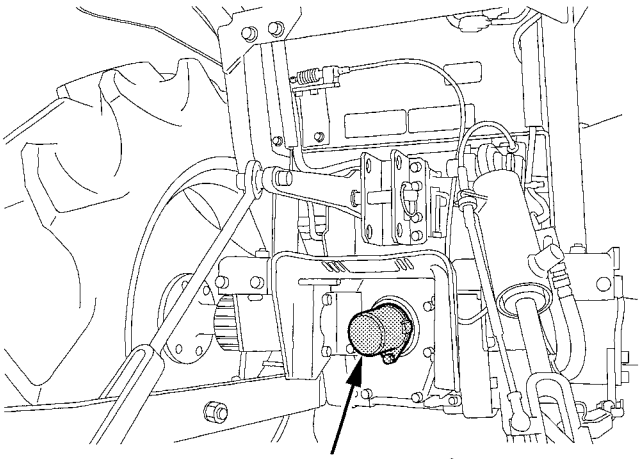


4. ロータリをゆっくり下げ，ロータリとオートヒッチフレームを切離します。

ロータリの取外し方

注　意

＊オートヒッチフレームからロータリを外した状態で，PTO軸を回転させないでください。
＊PTO軸を使わない場合は，PTO軸キャップを取付けてください。



PTO軸キャップ

ロータリの保管と移動

注　意

傷害事故防止のため，ロータリ単体で移動させる場合，次のことを守ってください。
＊後2輪ハンドルを操作し，[ロータリ格納位置]にする。
＊フロントスタンドとリヤスタンドを下げ，リヤスタンドは下げ位置でのロック状態を確認する。
＊ロータリ単体での移動は，平たんで硬い地面上で行なう。

重　要

＊オート仕様トラクタでロータリを着脱するときはロータリカバー2を必ず最下げにしてください。

補　足

＊長期間保管するときや洗車後は，錆付き防止のため必ず一度ロータリを取外します。
ユニバーサルジョイント側ジョイントスプライン部とロータリ側入力軸に，グリースを塗布してください。
＊ロータリ単体での移動は，オートハンガを使ってロータリカバー2もしくはフラップカバーの後端を地面より少し浮かして行なうと移動しやすくなります。

ロータリの上手な使い方

ロータリの保管と移動

警 告

＊ロータリのユニバーサルジョイントと耕うん爪に接触すると，巻込まれなどの死傷事故のおそれがあります。
回転中は近づかないでください。
＊必ず座席に座って，ロータリ作業を行なってください。
作業中，トラクタの飛降り，飛乗りは重大事故につながります。
＊ロータリの上に人を乗せたり，運転者以外の人をトラクタに乗せたりしないでください。
転落，巻込まれなど，重大事故の原因になります。

注 意

＊ユニバーサルジョイントの安全カバーを外したままで使用しないでください。
傷害事故を引起こすおそれがあります。

適応作業速度

作業目的と耕作地の条件に合せて，車速とPTO変速を決めてください。車速はトラクタの仕様により異なりますので，次表は作業のめやすとして参照してください。

〔マニュアルシフト仕様トラクタ〕

<table>
<tr><th colspan="5">変速レバー位置と作業</th></tr>
<tr><th rowspan="2">副変速</th><th rowspan="2">主変速</th><th colspan="3">P T O 変 速</th></tr>
<tr><th>1段</th><th>2段</th><th>3段</th></tr>
<tr><td rowspan="2">クリープ
C</td><td rowspan="2">1
2
3</td><td colspan="3">超細土耕うん</td></tr>
<tr><td colspan="2">強粘土
(荒耕し耕うん
畝立て)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">低</td><td rowspan="2">1
2
3</td><td>水田・畑作
(荒耕し
畝立て)</td><td>水田・畑作
(細土耕うん
畝立て)</td></tr>
<tr><td colspan="2">代かき</td></tr>
<tr><td>中</td><td>1
2</td><td colspan="3">代かき</td></tr>
</table>

〔グライドシフト(F)仕様トラクタ〕

<table>
<tr><th colspan="5">変速レバー位置と作業</th></tr>
<tr><th rowspan="2">副変速</th><th rowspan="2">主変速</th><th colspan="3">P T O 変 速</th></tr>
<tr><th>1段</th><th>2段</th><th>3段</th></tr>
<tr><td rowspan="4">低</td><td>3以下</td><td colspan="3">超細土耕うん</td></tr>
<tr><td>3～4</td><td colspan="2">強粘土
(荒耕し耕うん
畝立て)</td><td></td></tr>
<tr><td>5～7</td><td>水田・畑作
(荒耕し
畝立て)</td><td>水田・畑作
(細土耕うん
畝立て)</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="3" rowspan="2">代かき</td></tr>
<tr><td>中</td><td>4～5</td></tr>
</table>

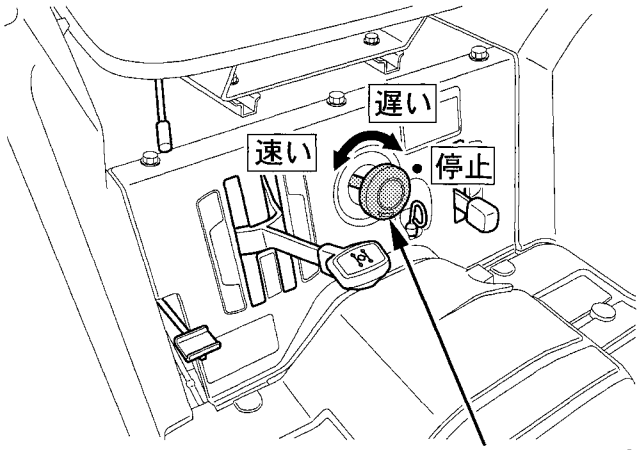
〔パワクロ仕様トラクタ〕

<table>
<tr><th colspan="5">変速レバー位置と作業</th></tr>
<tr><th rowspan="2">副変速</th><th rowspan="2">主変速</th><th colspan="3">P T O 変 速</th></tr>
<tr><th>1段</th><th>2段</th><th>3段</th></tr>
<tr><td rowspan="2">クリープ
C</td><td rowspan="2">1
2
3</td><td colspan="3">超細土耕うん</td></tr>
<tr><td colspan="2">強粘土
(荒耕し耕うん
畝立て)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">低</td><td rowspan="2">1
2
3</td><td>水田・畑作
(荒耕し
畝立て)</td><td>水田・畑作
(細土耕うん
畝立て)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">中</td><td colspan="2" rowspan="2">代かき</td></tr>
<tr><td>1
2
3</td></tr>
</table>

適応作業速度

■ロータリ落下速度の調整

トラクタ側の落下調整グリップでロータリ落下速度が調整できます。



[速い]方向に回す：
油圧回路が開き，作業機の落下速度が早くなります。

[遅い]方向に回す：
油圧回路が閉じ，作業機の落下速度が遅くなります。

[停止]方向に軽く締込むと，油圧がロック(停止)します。

ロータリの落下速度は，上昇位置から接地するまで２～３秒が適当です。
特にオート耕うん時，落下速度が速すぎると滑らかな耕うんができない場合があります。

重　要

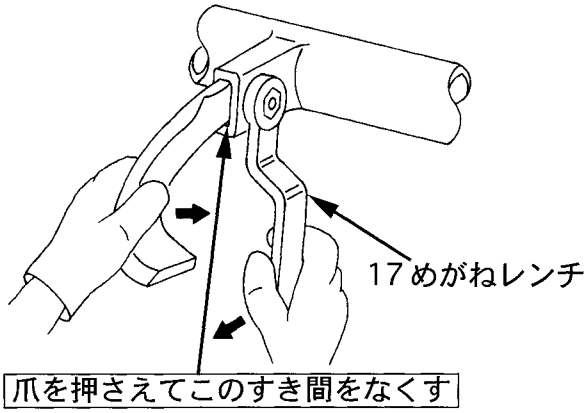
＊グリップは軽く回すだけで油圧がロックされますから無理に回さないでください。

なた爪の取付け方

注　意

傷害事故の防止のため，爪の交換及び取付けボルトの増締めをする場合，次のことを守ってください。
＊トラクタを平たんな広い場所に置く。
＊エンジンを止め，駐車ブレーキを掛ける。
＊ロータリの落下防止のため，落下調整グリップを右いっぱい回して締込む。
＊爪軸の下に木の台などをし，より安全性を確保する。
＊ボルト・ナットを締付ける場合は，めがねレンチが確実に入ったか確認する。

なた爪の着脱はオートハンガを利用して，ロータリカバー２をロックすると便利です。(**[オートハンガの調整]**の項を参照)



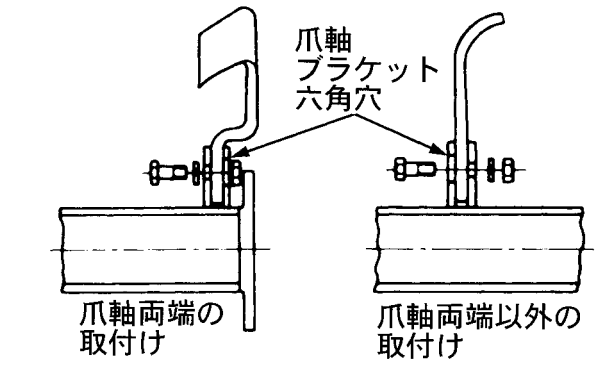
G-4302A

なた爪の取付け方

■サイドドライブ仕様[RL仕様]

◆爪軸

ボルトは六角穴側よりボルトを入れ，反対側よりバネ座金を入れ，ナットで締付けてください。



G-1608A

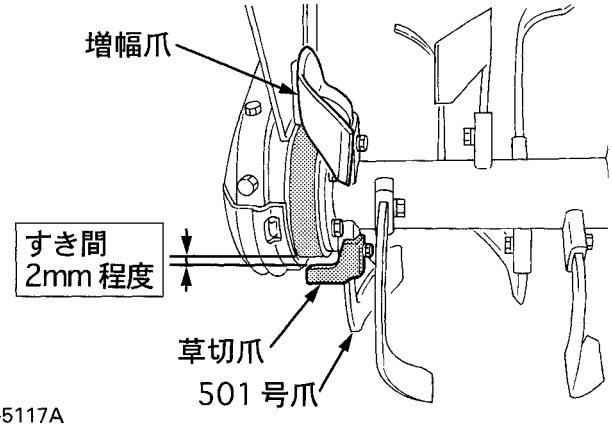
補　足

＊爪軸両端に取付ける増幅爪(左右各１本)は，大きい爪ブラケットに取付けてください。
＊めがねレンチで力いっぱい締付けてください。
[締付けトルク78.4～88.2N·m(800～900kgf·cm)]
＊爪を抜いて作業すると爪のバランスが狂い,振動や騒音が出ることがありますので,ご注意ください。
＊ナットを締付けるときは，トラクタ側のPTO変速レバーを入れることにより，爪軸をロックすることができ，力を入れてナットを締付けることができます。
＊なた爪，およびボルト，ナットは，クボタ純正部品を使用してください。

◆草切爪[RL仕様]

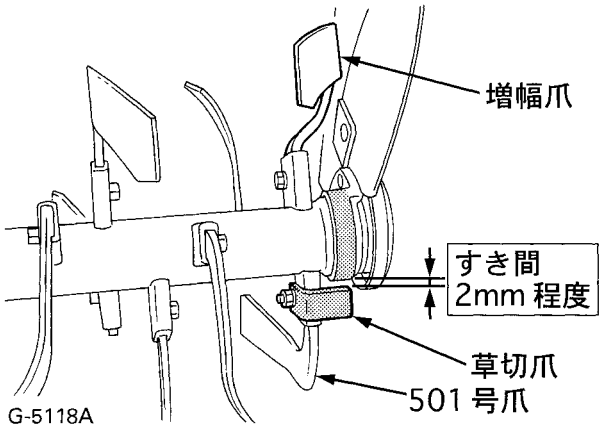
1. 両端の501号爪に，草切爪(R，L)をそれぞれ銀色の爪取付けボルトで共締めしてください。
2. 爪軸正転方向に対し，爪ブラケットの前に草切爪がくるようにチェーンケース側，サイドフレーム側に各１個取付けてください。
このとき，草切爪とケースとのすき間を2mm程度にしてください。

[チェーンケース側]



G-5117A

[サイドフレーム側]



G-5118A

重　要

＊草切爪とケースのすき間が大きすぎると草切爪の効果は少なくなります。

◆つきま線（草巻付き防止ワイヤ）

[RL仕様（標準）]

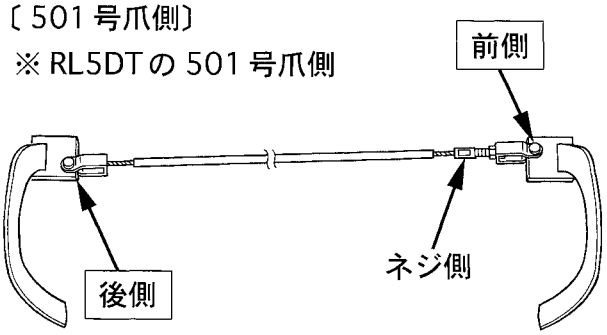
重　要

＊石の多いほ場では，つきま線の使用を控えてください。
＊ワイヤが損傷した場合は，すみやかにワイヤを新品に交換してください。但し，被覆している樹脂が摩耗もしくは切損しても使用は可能です。
＊耕うん爪は，クボタ純正部品を使用してください。
＊普通爪を使用する場合は，つきま線が脱落するので外してください。
＊カマなどでワイヤを傷つけないでください。

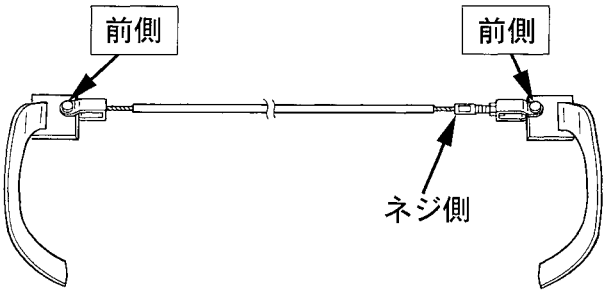
◆つきま線の取付け方

1. 以下の図を参照して，ワイヤ両端のステーの四角穴にそれぞれの爪を差込んでください。
２本のワイヤは，それぞれ爪を差込むステーが異なります。四角穴が小さい方に501号爪を，大きい方に503号（増幅）爪を差込んでください。
またワイヤには左右の方向があり，以下の図のようにネジ側をサイドフレーム側に取付けてください。

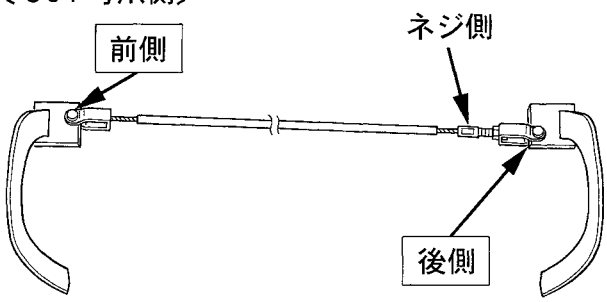
[RL4T]
〔501号爪側〕
※RL5DTの501号爪側



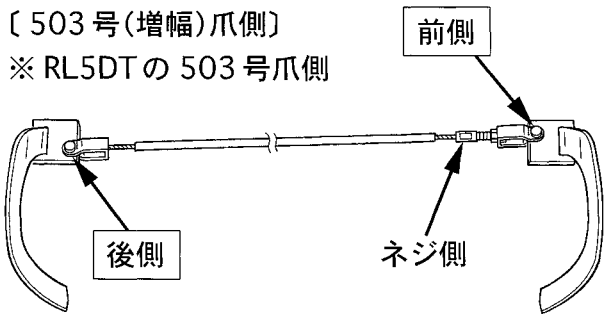
〔503号(増幅)爪側〕



[RL5T,RL6T,RL7T]
〔501号爪側〕



〔503号(増幅)爪側〕
※RL5DTの503号爪側



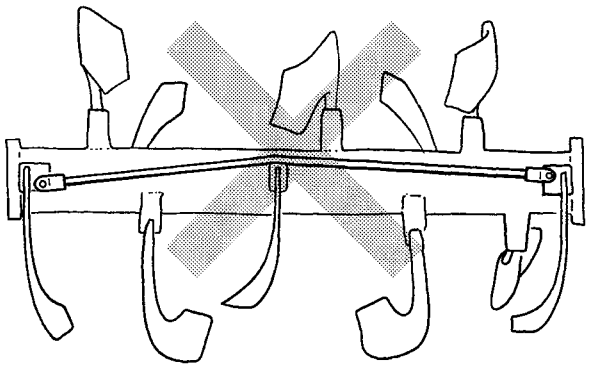
重 要

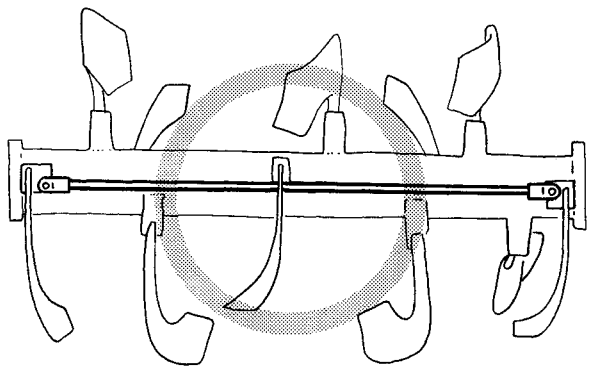
＊ステーの取付け方向を間違うと，ワイヤが取付かなかったり，ワイヤを損傷することがあります。

2. ステーを差込んだ爪を，チェーンケース側の爪ブラケットに取付け，ワイヤが一直線になるようにして，もう一方の爪をサイドフレーム側の爪ブラケットに取付けます。
501号爪には草切爪を取付けてください。

重 要

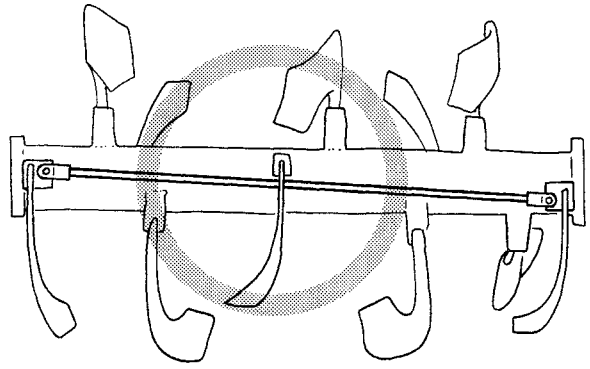
＊ワイヤが爪やブラケットに強く干渉していないか確認してください。正しい位置に取付けられている場合，ワイヤは爪軸両端部に取付けたステーの丸穴を結びほぼ直線になります。もし，下図のように爪やブラケットに強く干渉したまま取付けますと，早期にワイヤを損傷するおそれがあります。





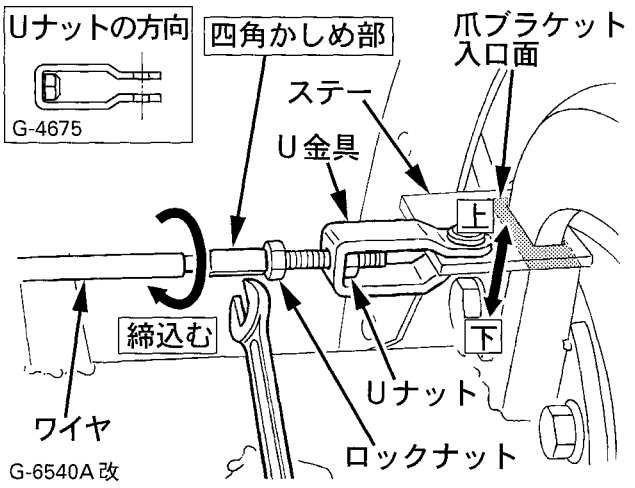
＊RL5T，RL6T，RL7Tの501号爪に取付けるワイヤを除き，ワイヤは爪軸にほぼ平行になります。

[RL5T，RL6T，RL7Tの501号爪側]



なた爪の取付け方

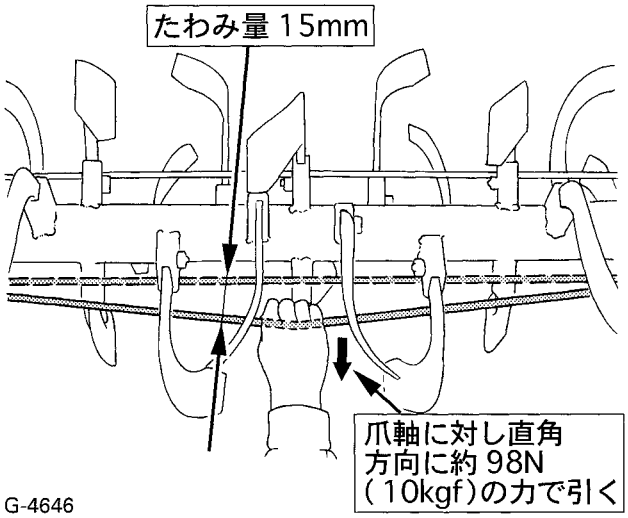
3. 4つのステーをつぎの位置にし，ワイヤを張ります。
   501号爪側→爪先端方向いっぱいにずらせた位置（下方向）
   503号爪側→爪ブラケット入口面に接触する位置（上方向）
   ロックナットを四角かしめ部付近までゆるめ，ワイヤのネジの四角かしめ部を付属のスパナ(8-12)のM8側で締込み，ワイヤのたわみ量を調整後，ロックナットで固定します。
   ロックナットはスパナ(8-12)のM12側で締込んでください。



重　要

＊ワイヤの調整はロックナットをゆるめてから，必ず付属のスパナ(8-12)で行なってください。ロックした状態の増し締めや他の工具を使用しますと，破損するおそれがあります。
＊ワイヤの調整は必ず4.の手順でたわみ量を確認しながら行なってください。
＊ロックナットの締付トルクが14.7N・m(150kgf･cm(参考値))をこえないようにしてください。

4. 爪軸の中央付近で，ワイヤを爪軸にして直角方向に約98N(10kgf)の力で引いたとき，ワイヤが元の位置から15mmたわむ程度に調整してください。

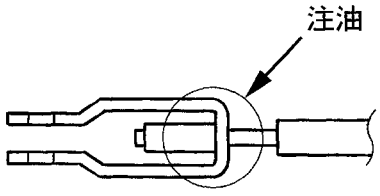


注　意

傷害事故の防止のため，ワイヤの調整時は次のことを守ってください。
＊ワイヤを引くときはゆっくり引き，ワイヤに体重をかけて引かないでください。

重　要

＊耕うん前にワイヤがゆるんでいないか確認してください。ゆるんでいる場合は，3.4.の手順でワイヤを調整してください。ゆるんだまま使用すると，つきま線の効果が少なくなり，ワイヤを損傷するおそれがあります。ワイヤを調整するときは，ネジ部に付着した土などを洗い流し，ネジ部に注油してから行なってください。
＊ロータリ使用後，特に長時間使用しないときは図示箇所を洗浄後，注油してください。



補　足

＊ワイヤを調整するとき，ある程度ワイヤが張ってくると，スパナで締めてもワイヤのネジがゆるむ(戻る)ことがあります。そのときは，ロックナットでロックしながら調整してください。

◆つきま線の取外し方

取付け方の逆の手順で行なってください。

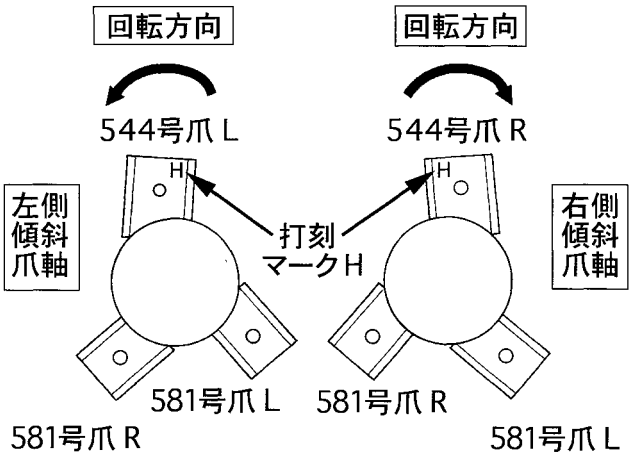
なた爪の取付け方

■センタドライブ仕様[R仕様]

◆傾斜爪軸

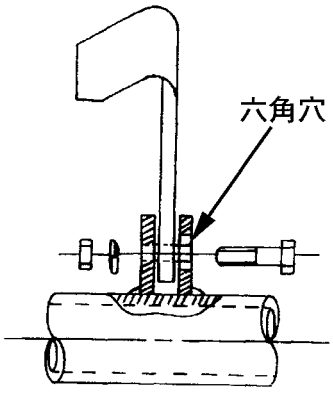
(1) **[H]**の刻印のあるブラケットには，544号爪を内向きに入れ，ボルト，ナットにより締付けてください。

(2)他のブラケットには，581号爪を下図の向きに取付けてください。



◆爪軸

ボルトは六角穴側よりボルトを入れ，反対側よりバネ座金を入れ，ナットで締付けてください。



補　足

＊めがねレンチで力いっぱい締付けてください。
[締付けトルク78.4～88.2N·m(800～900kgf·cm)]

＊爪を抜いて作業すると爪のバランスが狂い,振動や騒音が出ることがありますので,ご注意ください。

＊ナットを締付けるときは，トラクタ側のPTO変速レバーを入れることにより，爪軸をロックすることができ，力を入れてナットを締付けることができます。

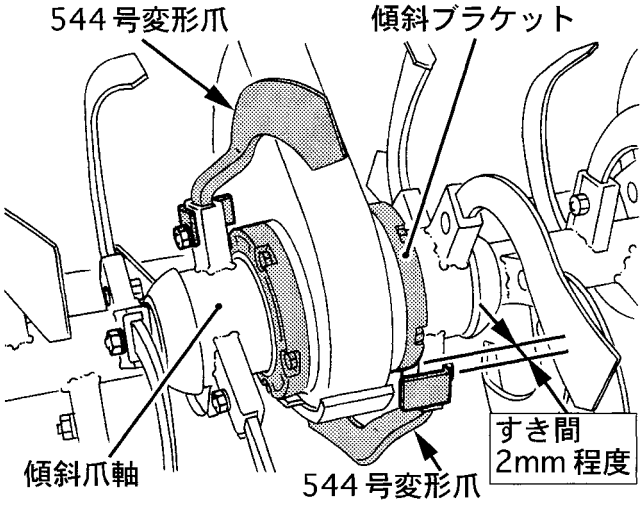
＊耕うん爪は，クボタ純正部品を使用してください。

◆草切爪[R仕様]

1. 左右の544号変形爪（各１本）に，草切爪を銀色の爪取付けボルトで共締めしてください。
（草切爪は左右兼用です）
2. 爪軸正転方向に対し，爪ブラケットの前に草切爪がくるように取付けてください。
このとき，草切爪と傾斜ブラケットとのすき間を2mm程度にしてください。

重　要

＊草切爪と傾斜ブラケットのすき間が大きすぎると草切爪の効果は少なくなります。



なた爪の取付け方

◆つきま線（草巻付き防止ワイヤ）
[R仕様（別売アタッチメント）]

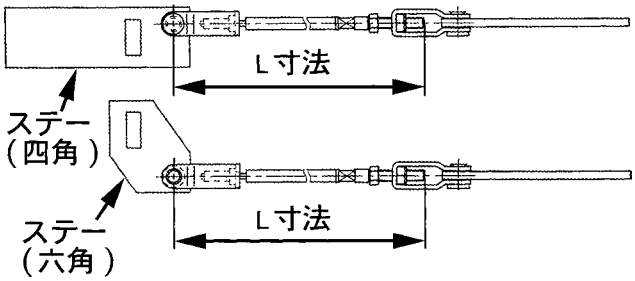
重　要

＊傾斜爪軸の爪にはワイヤを装着することはできません。
＊ワイヤの種類により爪軸両端部への取付位置が異なりますので，以下の手順に従って取付けてください。

◆つきま線の取付け方

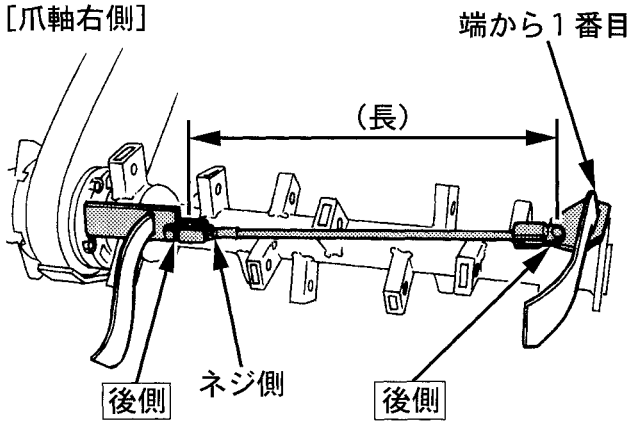
1. ワイヤは下表の通り３種類あり，各々ワイヤの長さとステーの形状が異なります。

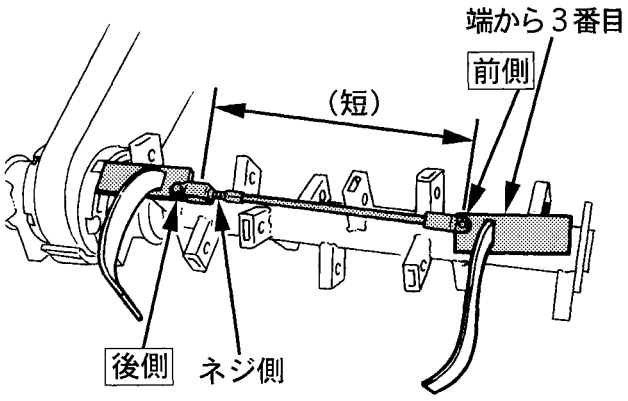
ワイヤ長さ (L寸法)	ステー形状	本数	取付爪軸
長(465mm)	四角＋六角	1	右側
中(418mm)	四角＋六角	1	左側
短(371mm)	四角＋四角	2	左右各１



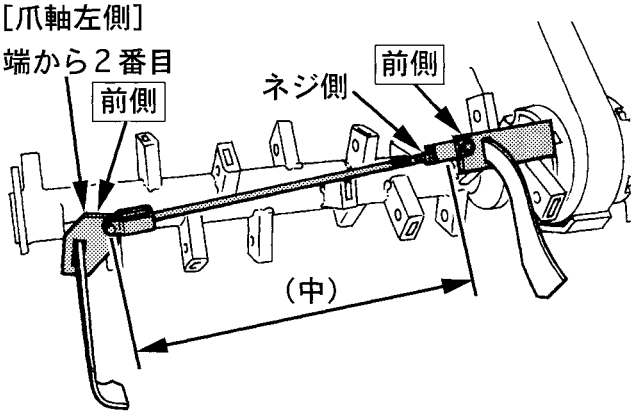
2. 以下の図を参照して，ワイヤ両端のステーの四角穴にそれぞれの爪を差込み爪ブラケットに取付けてください。
このとき，ワイヤがステーの丸穴と結びほぼ一直線になるようにしてください。
ワイヤのネジ側をチェーンケース側に取付けてください。

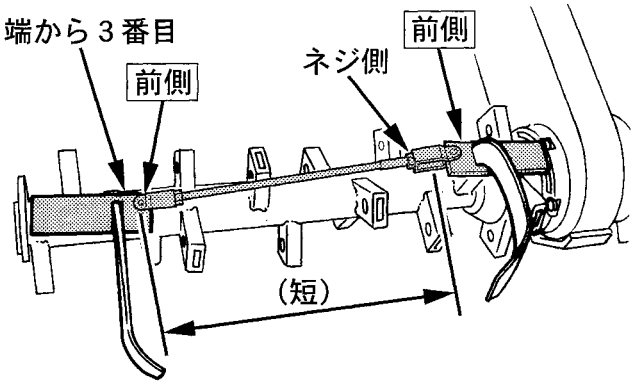
[爪軸右側]





[爪軸左側]



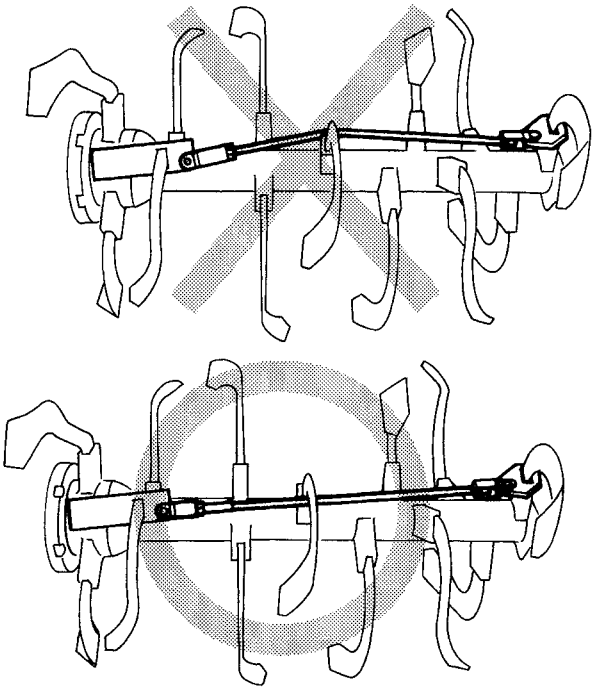


補　足

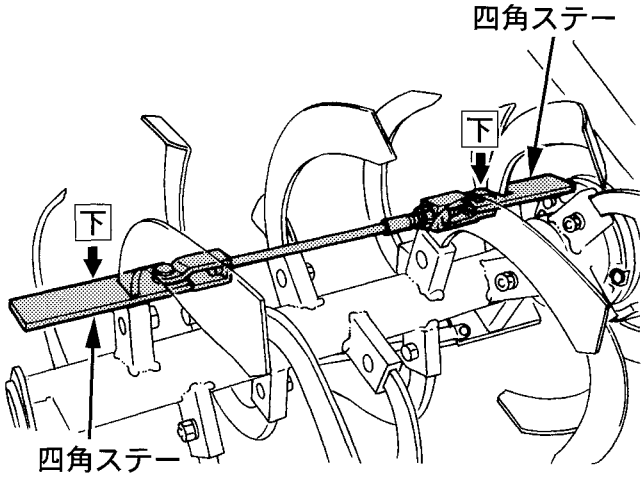
＊ステー形状が六角のワイヤを除き，ワイヤは爪軸にほぼ平行になります。

重　要

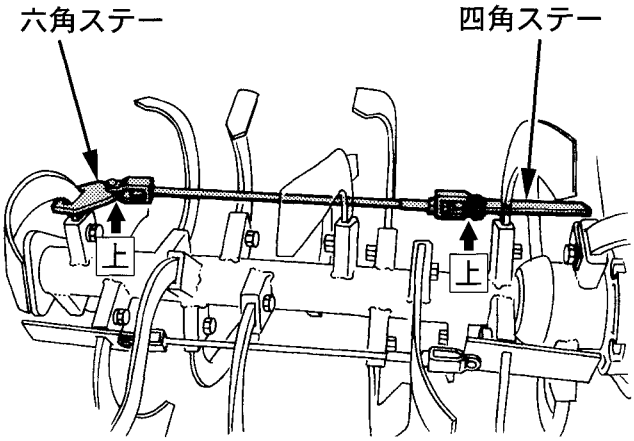
＊ステーの取付け方向を間違えて取付けた場合，また，取付け位置を間違えて傾斜爪軸の爪に取付けた場合，ワイヤが取付かなかったり，ワイヤを損傷することがあります。
＊ワイヤが爪やブラケットに強く干渉していないか確認してください。正しい位置に取付けられている場合，ワイヤはステーの丸穴を結びほぼ直線になります。もし，下図のように爪やブラケットに強く干渉したまま取付けますと，早期にワイヤを損傷するおそれがあります。



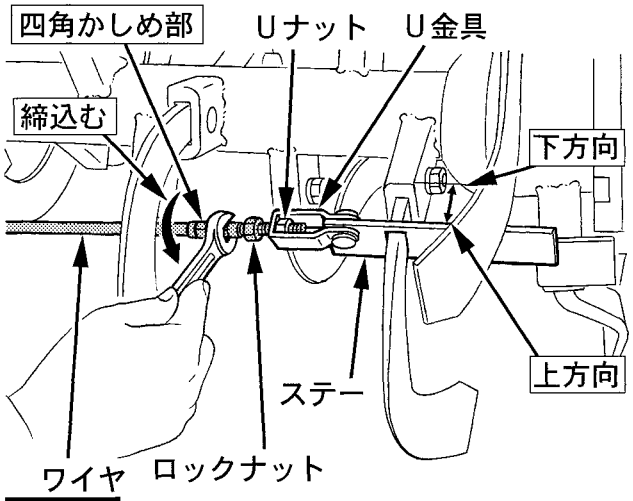
3. ステーを次の位置にし，ワイヤを張ります。
[四角ステーが２つのワイヤの場合]
爪ブラケット入口面に接触する位置（矢印**[下]**方向）



[四角と六角のステーが１個ずつのワイヤの場合]
爪先端方向いっぱいにずらせた位置（矢印**[上]**方向）



ロックナットを四角かしめ部付近までゆるめ，ワイヤのネジの四角かしめ部を付属のスパナ(M8-12)のM8側で締込み，ワイヤのたわみ量を調整後，（4.項参照）ロックナットで固定します。
ロックナットはスパナ(M8-12)のM12側で締込んでください。

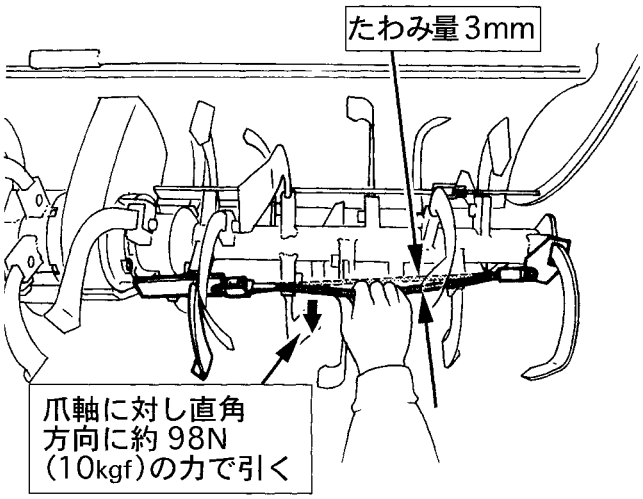


重　要

＊ワイヤの調整はロックナットをゆるめてから，必ず付属のスパナ(M8-12)で行なってください。ロックした状態の増し締めや他の工具を使用しますと，破損するおそれがあります。
＊ワイヤの調整は必ず4.の手順でたわみ量を確認しながら行なってください。
＊ロックナットの締付けトルクが14.7N・m(150kgf-cm(参考値))をこえないようにしてください。

なた爪の取付け方

4. ワイヤの中央付近を爪軸に対して直角方向に約98N(10kgf)の力で引いたとき，ワイヤが元の位置から3mmたわむ程度に調整してください。



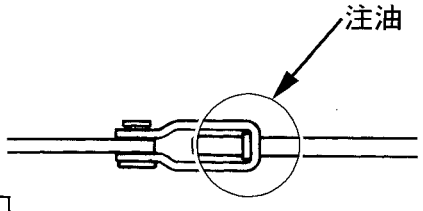
注 意

傷害事故の防止のため，ワイヤの調整時は次のことを守ってください。
＊ワイヤを引くときはゆっくり引き，ワイヤに体重をかけて引かないでください。

重 要

＊耕うん前にワイヤがゆるんでいないか確認してください。ゆるんでいる場合は，3.4.の手順でワイヤを調整してください。ゆるんだまま使用すると，つきま線の効果が少なくなり，ワイヤを損傷するおそれがあります。ワイヤを調整するときは，ネジ部に付着した土などを洗い流し，ネジ部及び図示箇所に注油してから行なってください。

＊ロータリ使用後，特に長時間使用しないときは図示箇所を洗浄後，注油してください。



補 足

＊ワイヤを調整するとき，ある程度ワイヤが張ってくると，スパナで締めてもワイヤのネジがゆるむ（戻る）ことがあります。そのときは，ロックナットでロックしながら調整してください。

◆つきま線の取外し方

取付け方の逆の手順で行なってください。

補 足

＊延長爪軸アッシ（別売オプション）はつきま線を装着したまま，取付けることができます。

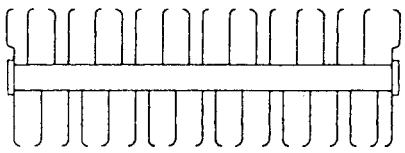
1 均平耕法 （耕起・細土・代かき・整地作業）

◆RL仕様

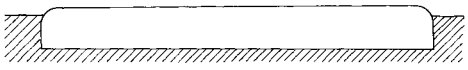
爪ブラケット六角穴の反対側に爪の曲がりがくるよう，参考例に従って取付けてください。
ただし，爪軸両端の４個の爪ブラケット(左右各２個)には六角穴にナットを入れて，ボルトで締付けてください。

〔参考〕

RL5T



G-4224A



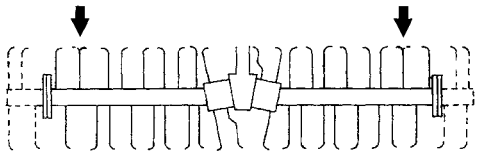
G-1914A

◆R 仕様

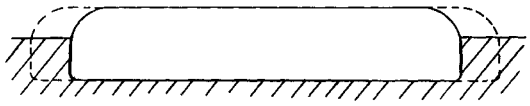
爪ブラケット六角穴の反対側に爪の曲がりがくるよう，参考例に従って取付けてください。
（傾斜爪軸は**[なた爪の取付け方]**の項を参照）

〔参考〕

R5T



G-4145A改



G-1583A

点線は延長爪軸付き(別売オプション)の場合を示します。また，⬇印付は延長爪軸の有無により爪を左・右入替えてください。

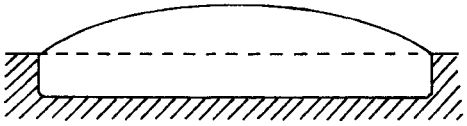
延長爪軸	⬇印爪
付	外向き
無	内向き

なた爪の取付け方

2 1つ盛り耕法 (乾土効果を必要とする水田の耕起・細土作業)

◆RL仕様

爪軸中央を基準とし爪はすべて内向きになるよう，取付けてください。
このとき，ロータリカバー2を上げて，カバーが耕うんした土壌に当らないようにします。
RL4Tは，爪軸中央の爪（2本）とその両隣りの爪（2本）の向きはそのままにしてください。



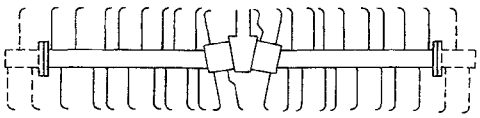
G-1619A

◆R仕様

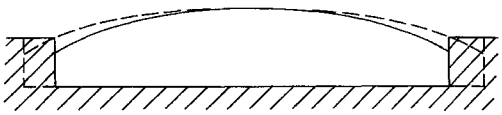
チェーンケースに向って爪はすべて内向きになるよう，参考例に従って取付けてください。（傾斜爪軸部はそのまま）ロータリカバー2を上げて，カバーが耕うんした土壌に当らないようにします。

〔参考〕

R5T



G-4149A改



G-1586A

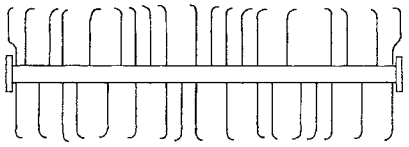
3 2つ盛り耕法 (乾土効果を必要とする水田の耕起・細土及び1連畝立て作業)

◆RL仕様

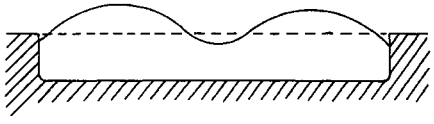
爪軸中央と両端の間でそれぞれ爪が内向きになるよう，参考例に従って取付けてください。
このとき，ロータリカバー2を上げて，カバーが耕うんした土壌に当らないようにします。

〔参考〕

RL5T



G-4142A



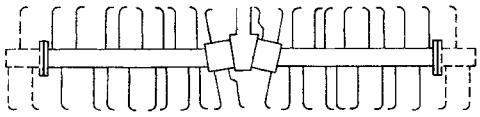
G-1623A

◆R仕様

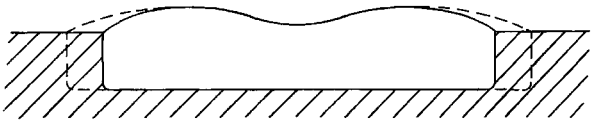
チェーンケース部と両爪軸両端の間でそれぞれ爪が内向きになるよう，参考例に従って取付けてください。(傾斜爪軸部はそのまま)このとき，ロータリカバー2を上げて，カバーが耕うんした土壌に当たらないようにします。

〔参考〕

R5T



G-4191A改



G-1589A

マッドレスロータリの取扱い

◆SC仕様

注 意

傷害事故の防止のため，ゴムカバーの装着確認をする場合，次のことを守ってください。
＊トラクタを平たんな広い場所に置く。
＊エンジンを止め，駐車ブレーキを掛ける。
＊ロータリの落下防止のため，落下調整グリップを右いっぱい回して締込む。
＊爪軸の下に木の台などをし，より安全性を確保する。

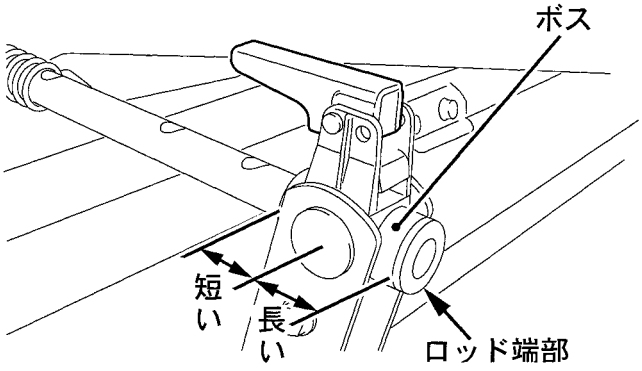
重 要

＊作業前に次の項目を点検してください。

(1) ロッド部のスペーサ（オートハンガ）の取付け方向の確認。
スペーサ（オートハンガ）のボスの［**長い方がロッドの後端側**］になっているか確認してください。

補 足

＊SC仕様以外は，**[短い方がロッドの後端側]**になります。



(2) マッドレスカバーがしっかりと装着されているか，ボルト類のゆるみがないか確認し，ゆるみがある場合は確実に締付けてください。
締付ける場合はボルトのまわりの土をよく落としてから行なってください。**[締付けトルク25. 5～29. 4N･m（260～300kgf･cm）]**

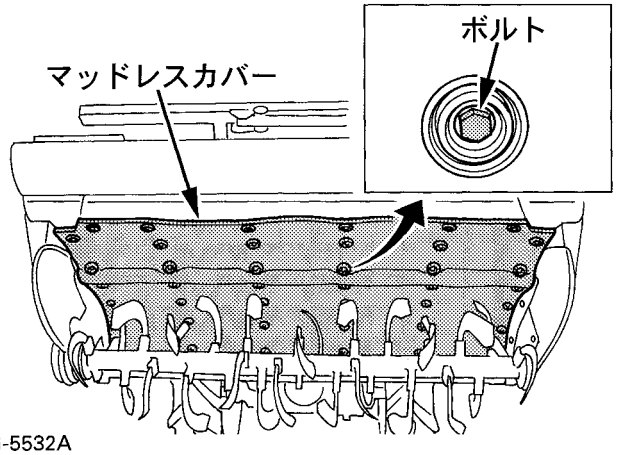
＊マッドレスカバーに付着している土を取除く場合，鋭利な物（ナイフ，ドライバなど）の使用はさけてください。

＊マッドレスカバーに大きな破れやキズが発生した場合は，すみやかに補修してから使用してください。

補修部品

品 名	品 番
パッチ(M)	99514-5102-1
接着剤	99514-5103-1
脱脂剤	99514-5104-1
ブラシ	99514-5105-1

＊ロータリを地表に降ろしたままバックしないでください。
耕うん爪でゴムカバーを損傷させるおそれがあります。



G-5532A

補 足

＊角張った石の多いほ場では，マッドレスロータリの使用を控えてください。
＊普通爪，ロングカット爪は使用しないでください。
＊ゴムカバー内部に泥が滞留しゴムカバーと耕うん爪が接触する場合は，ゴムカバー内部の泥を取除いてください。

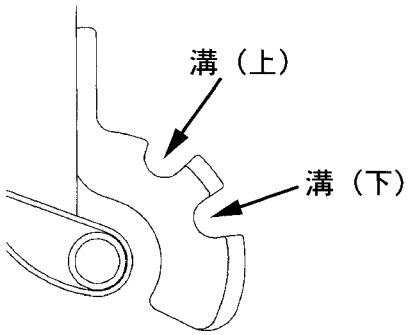
ロータリの調整

ロータリカバーの調整

■フラップカバーの使用法

注　意

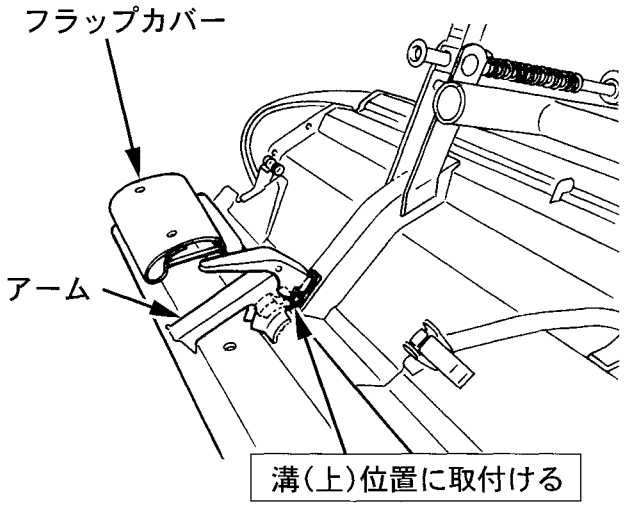
＊ロータリの着脱時は，フラップカバーを装着して行なってください。



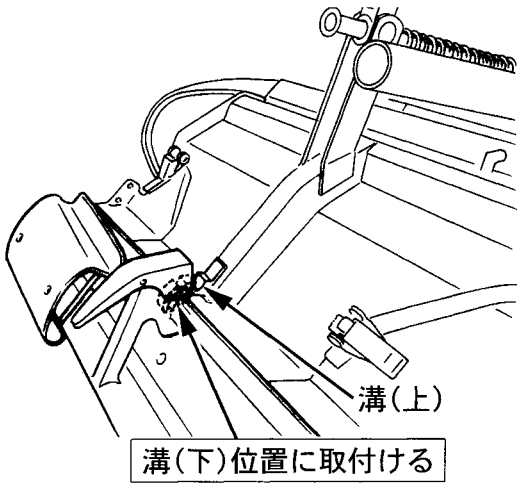
G-5130A

フラップカバーは，２段階の調整と着脱が可能です。作業に合わせて使い分けてください。
特にオート作業時，進行方向に凹凸ができる場合は，溝（上）で使用してください。

◆一般耕うん作業



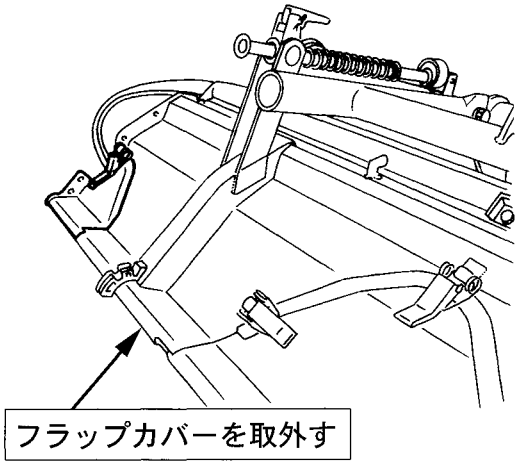
◆荒耕，浅耕し又は代かき作業



補　足

＊トラクタがKT27(J)，KT30(J)，KT20PC，KT24PC，KT27PC，KT20-HN-8，KT24-HN，KT30-HN，KT24-HTの場合，荒耕，浅耕し又は，一般代かき作業は上溝位置で行なうことができます。
＊半湿田での代かき作業のみ下溝で行なってください。

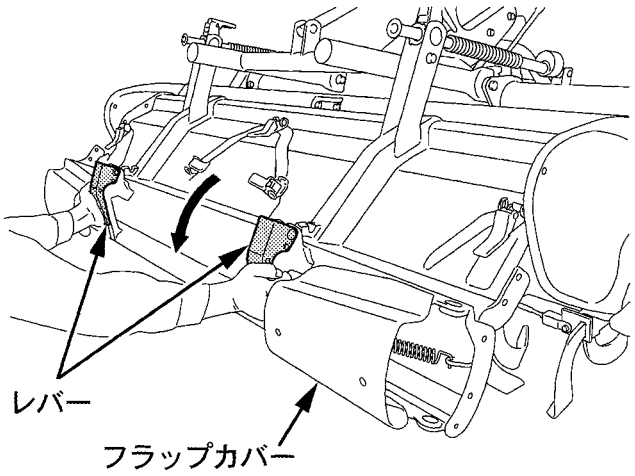
◆深耕し作業



ロータリカバーの調整

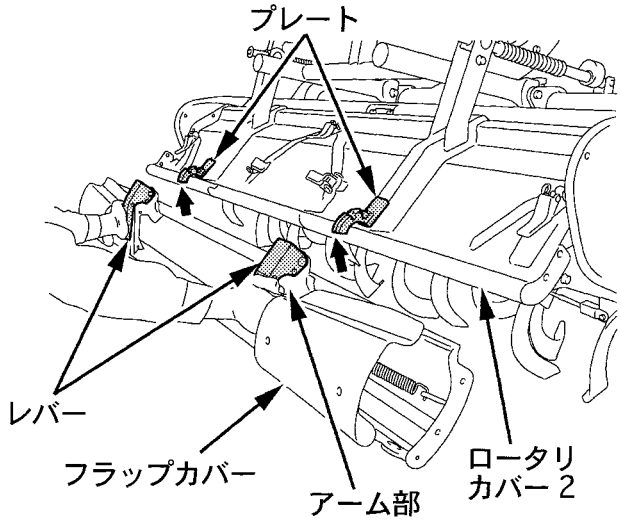
■フラップカバーの取外し方

フラップカバーのアーム部とレバーを握ったまま，ロータリカバー２から取外します。



■フラップカバーの取付け方

1. フラップカバーのアーム部とレバーを握ったまま，フラップカバーを，ロータリカバー２のプレートの下方(⬆部)から差込んでください。
   (上方から引っかけないでください。)

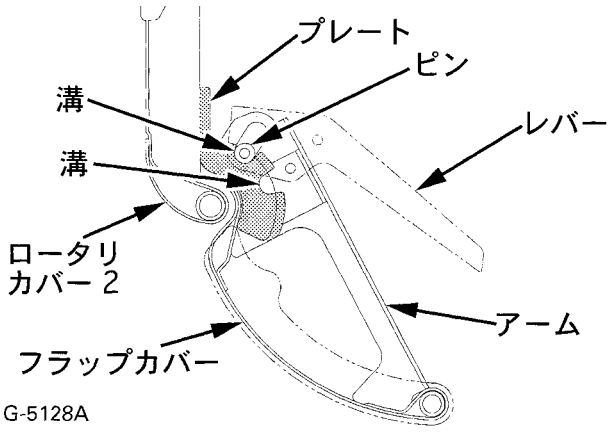


2. 上記の状態で握ったレバーのピンが，プレートの２つの溝のいずれかに確実に挿入される位置で，レバーをはなしてください。

重　要

＊ピンが確実に溝に入っていることを確認してください。

[正しい装着状態]



G-5128A

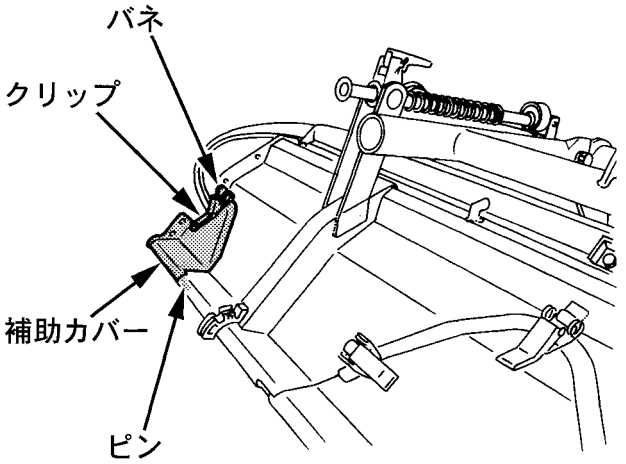
[誤まった装着状態]

ピンがプレートの２つの溝のいずれにもはまっていないと，フラップカバーが落下することがあります。ピンが確実に溝にはまっているように正しく装着してください。

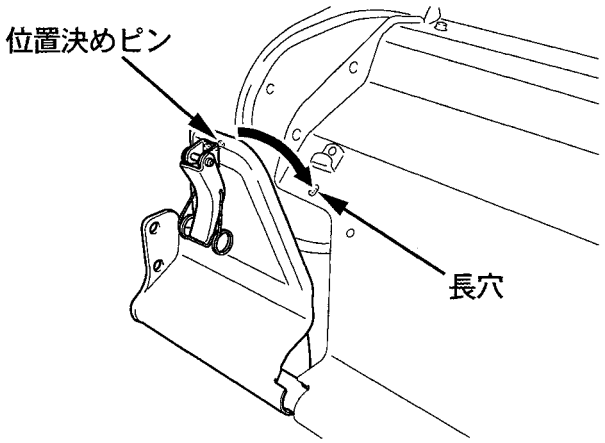
ロータリカバーの調整

■補助カバーR・Lの取外し方

後２輪併用で枕地を少なくする，又は片培土作業をするため補助カバーを取外す場合は，クリップを引上げ，補助カバーを取付けているバネをロータリカバー２のかけ金具から取外してください。

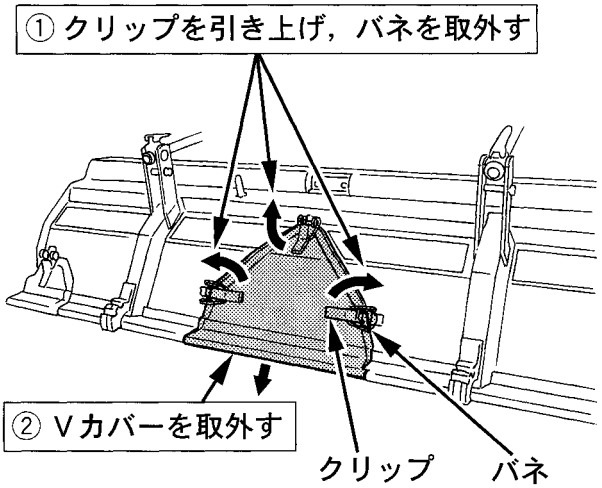


補助カバーを取付ける場合は，補助カバーの位置決めピンをロータリカバー２の長穴に差込んでからバネをロータリカバー２のかけ金具に取付け，クリップを引き下げてください。



品　名	品　番	個数
カバー（ボウド）	7C505-5626-0	2
ボルト	01173-51020	4
ナット	02176-50100	4
バネザガネ	04512-60100	4

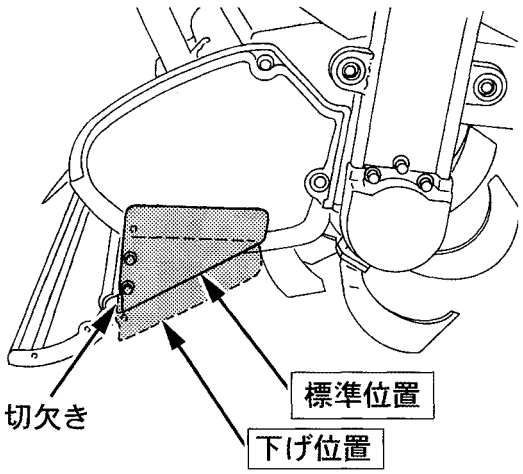
■Vカバーの取外し方



● 取付けは逆の順序で行なってください。
クリップは確実にロックしてください。

■防土カバーの上手な使い方（別売オプション：RL仕様）

1. 防土カバーは，２段階の調整と着脱が可能です。作業に合わせて使い分けてください。
2. 防土カバーの取付け方向は，切欠きが下になるようにしてください。
3. 特に浅耕し作業や，代かき作業を行なう場合は，防土カバーを下げ位置にすると効果的です。
   また，不要の場合は取外して使用してください。



ロータリカバーの調整

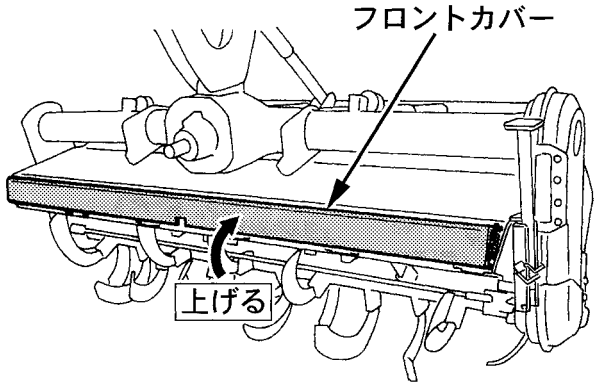
■フロントカバーの使用法

注 意

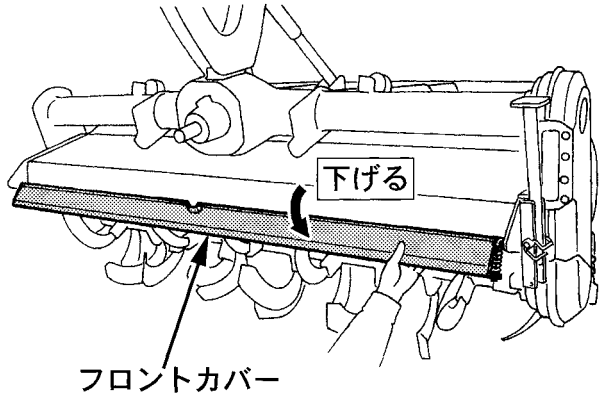
＊フロントカバーの[上げ下げ]操作時，指や手を挟まれないように注意してください。傷害事故を引起こすおそれがあります。

フロントカバーは[上げ下げ]の調整が可能です。作業に合わせて使い分けてください。
フロントカバーの上げ下げの操作は，フロントカバーのチェーンケース側前端をつかみ行なってください。

1. 通常の耕うん作業は，[上げ]位置にして使用してください。



2. 代かき作業は，[下げ]位置にして使用してください。
   但し[下げ]位置にしたフロントカバーに直接土や障害物が接触する場合は，[上げ]位置にしてください。



重 要

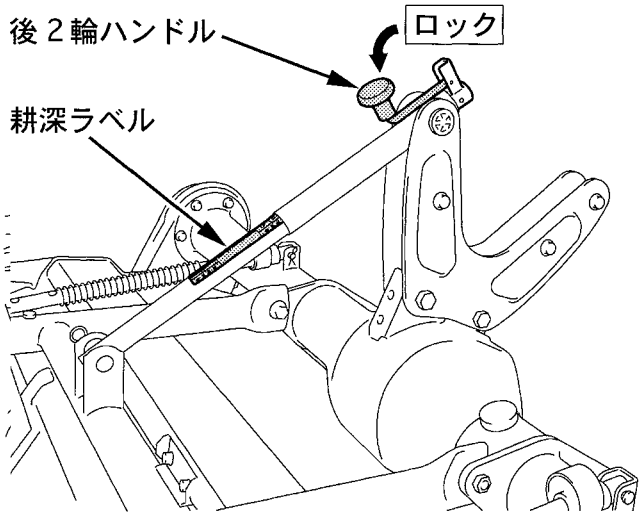
＊[下げ]位置にしたフロントカバーに直接土や障害物が接触したまま使用しますと，フロントカバーを破損することがありますので，フロントカバーを[上げ]位置にしてください。
＊[上げ下げ]操作を行なう際，フロントカバーに土などが付着したまま操作しますと，フロントカバーを破損することがありますので，土などを取除いてから行なってください。
＊KT27J，KT30，KT30Jにストレークを装着する場合，ストレークとフロントカバーが干渉する場合がありますので，ストレークは内側に装着してください。

耕深の調整（後２輪仕様）

注　意

＊トラクタを前進させながらの耕深調整はしないでください。傷害事故を引起こすおそれがあります。

後２輪ハンドルを回すことにより，耕深を自由に選ぶことができます。また耕うん深さ調整の目安として，耕深ラベルの目盛りをご使用ください。



補　足

＊後２輪ハンドル調整操作時以外は，図の位置にセットしてください。

◆標準（スタンド仕様）タイプを購入された方は，オプションにて追加購入することができます。

品　　名	品　　番
コウ２リンアッシ（RL5T）	7A205-5700-1

後２輪の調整（後２輪仕様）

注　意

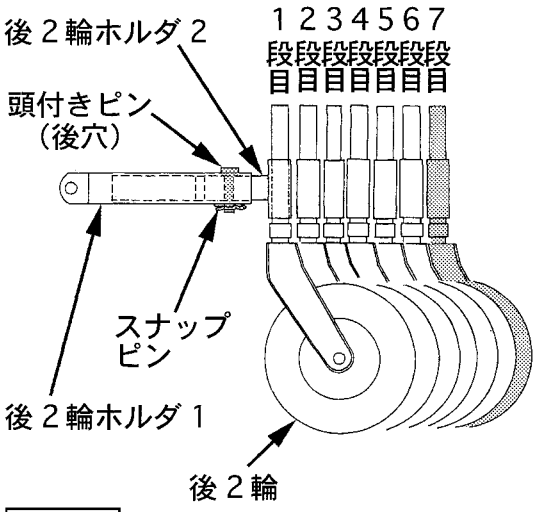
＊後２輪を使用しない場合は取外してください。
後２輪を上方に反転させての耕うん・移動は，傷害事故を引起こすおそれがあります。

後２輪は前後方向に14段階，上下方向に４段階の調節ができますので，作業に合せて調整してください。
特に指示された作業以外は後２輪ホルダ１の後穴を使用してください。

■後２輪ホルダの前後調整

作業により次のように調整してください。

後２輪使用	一般耕うん作業（12cm以下）	フラップカバー無し 補助カバー付	４段目
		フラップカバー付 補助カバー付	６段目
	フラップカバー付，補助カバー付		７段目
	フラップカバー無し，補助カバー無し		１段目
	ロータリを着脱する場合		７段目



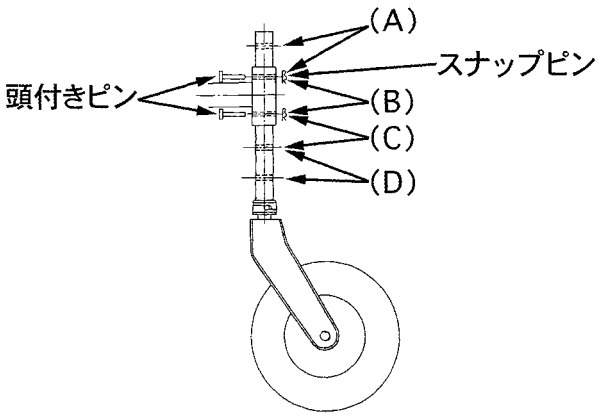
補　足

＊水田(湿田)で，トラクタの性能を十分発揮させるため，後2輪はロータリカバーに接触しない範囲で，接近させて使用してください。

後２輪の調整（後２輪仕様）

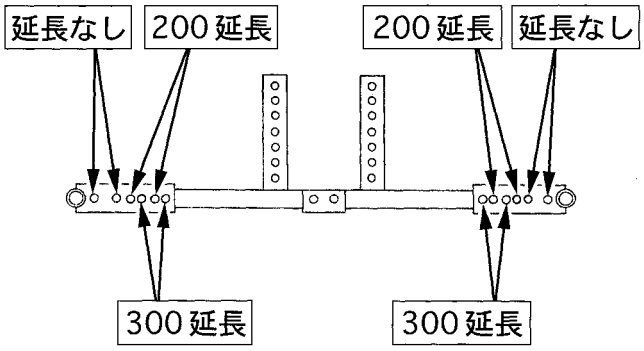
■上下調整

1. 一般耕うんの場合。
   後２輪支柱を(B)の穴に，セットしてください。
2. 代かき・湿田耕うんの場合。
   後２輪支柱を(A)の穴に，セットしてください。
3. 必要に応じて(C)(D)の穴に，取付けできます。
4. 頭付きピンは必ず前方から挿入してください。カバーと接触して，スナップピンが抜けるおそれがあります。
5. ロータリを着脱する場合は，(B)の穴に取付けてください。
   (片培土機を使用するときは，(D)の位置にセットしてください。)



■左右調整[R仕様]

延長爪軸(別売オプションの200㎜又は300㎜)を取付けたときは，それぞれ耕幅に合せて，後２輪を外側に移動させてください。



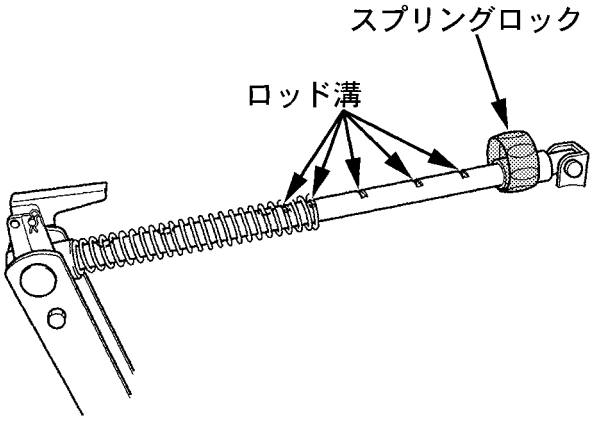
スプリングロックの調整

注　意

＊スプリングロックの操作は必ずロータリを地上に降ろし，エンジンを停止してから行なってください。
＊スプリングロックを操作するときは，必ずスプリングロックの外周を持って操作してください。傷害事故を引起こすおそれがあります。
＊スプリングが押付けられた状態でスプリングロックを操作するときは，必ず最後までスプリングロックを握った状態で操作してください。途中で手をはなすと，スプリングロックが上方へいきおいよく飛出し危険です。

◆スプリングロックの位置

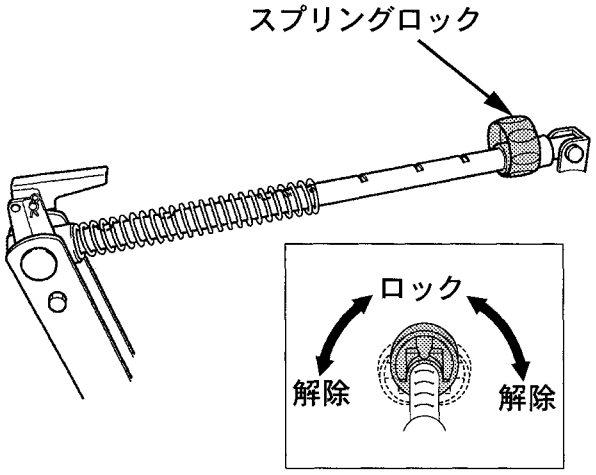
接地圧条件に合わせてロッド溝をお選びください。（前から１番目，２番目……とセット位置を後方に下げるにつれ，押付力は強くなります）
通常は前から１番目の溝にセットしてください。
爪の交換等ロータリカバー２を持上げて使用する場合も一番上の溝にセットしてください。



スプリングロックの調整

◆スプリングロックの位置決め

1. スプリングロックを約90度回し，ロックを解除させます。



2. その状態でスプリングロックを希望位置まで移動させます。
3. スプリングロックをロックの位置まで回し，少し上下に揺動させて確実にロックします。（カチッと音が鳴り，上下に動かない位置がロック位置です）

重　要

＊スプリングロックは常にいずれかのロック溝にセットして使用してください。

補　足

＊ロータリを長期に使用しないとき，あるいは操作が重くなったときはよく洗浄し，土を完全に取除いた後，しゅう動部に注油してください。

オートハンガの調整

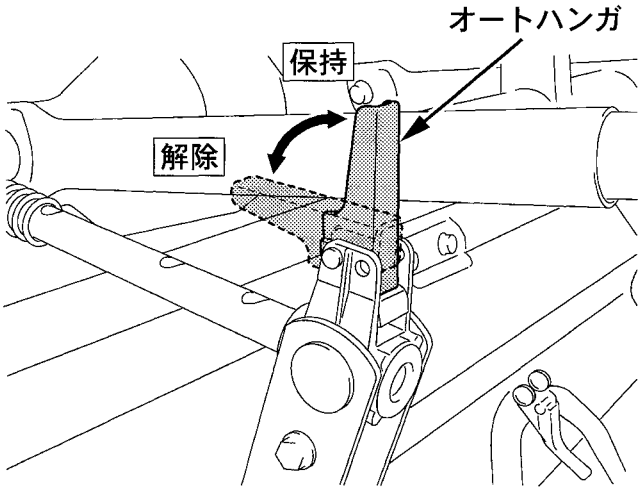
注　意

＊オートハンガの操作は，傷害事故を引起こすおそれがありますので，平坦な広い場所で周囲の安全確認を行ない，エンジンを止めて，駐車ブレーキを掛けてから行なってください。

＊オートハンガを[解除]にした時は，直ちにロータリカバー２の保持を解除してください。

◆ロータリカバー２を保持する場合

オートハンガを左右２カ所とも**[保持]**（自動ロック）の位置にし，ロータリカバー２を持上げると，希望の位置（３カ所）で自動的にロータリカバー２が保持されます。



オートハンガの調整

◆ロータリカバー２の保持を解除する場合

オートハンガを左右２カ所とも**[解除]**の位置にしてください。

ロータリカバー２を少し持上げると自動的にロータリカバー２の保持が解除されます。

重　要

＊**[保持]**するときは，必ず左右のオートハンガが**[保持]**位置になっているか，またオートハンガのピンがロッドの穴に確実に入っているかを確認してください。

＊耕うん爪の点検・交換などを行なう場合は，ロータリカバー２は一番上げた位置で保持して行なってください。（ロッドの下から３番目の穴で保持した位置）

＊保持を解除する場合は，特にロータリの下や周囲の安全確認を行なってください。

＊ロータリカバー２を保持した状態では絶対に走行しないでください。走行する場合は必ず保持を解除してください。

補　足

＊オート作業する場合，ロータリカバー２を保持した状態で使用しますとロータリが下降しないことがありますので，必ずオートハンガを**[解除]**の位置にして使用してください。

＊長期間保管する時，あるいは操作が重くなったときは良く洗浄し，土を完全に取除いた後，レバー部とピン部に十分注油してください。

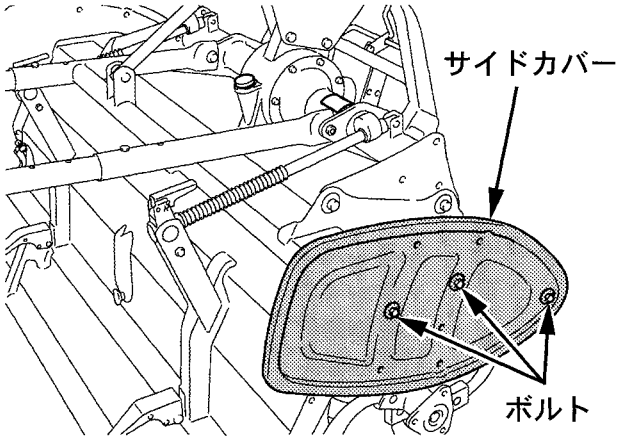
サイドカバーの調整

◆R仕様

注　意

＊サイドカバーを外した状態でロータリを使用しないでください。傷害事故を引起こすおそれがあります。

石の多いほ場・草地で作業を行なう場合は，左右のサイドカバーのセット位置を上に上げて使用してください。



畝立機の取付け(別売アタッチメント)

注 意

＊畝立機の取付けは，必ずロータリを地上に近い位置に降ろし，キースイッチを[切]にしてエンジンを停止してから行なってください。
＊畝立機を使用しない場合は取外してください。
畝立機を上方に反転させての耕うん・移動は傷害事故を引起こすおそれがあります。（反転金具使用時を除く）
＊畝立機を使用しない場合，Vカバー又はカバーフタを外したままでロータリを使用しないでください。傷害事故を引起こすおそれがあります。

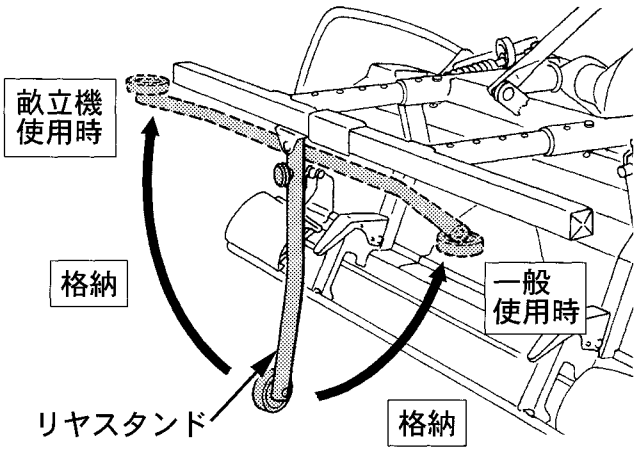
補 足

＊反転金具ご使用時は，反転金具に添付された取扱要領書をご参照ください。

畝立機は，畝立て金具の穴に下から差込み，作業に応じて取付け高さを変え，ボルトで取付けてください。(畝立機と畝立て金具は**[アタッチメント一覧表]**を参照してください。)

■V，SCVカバーの場合

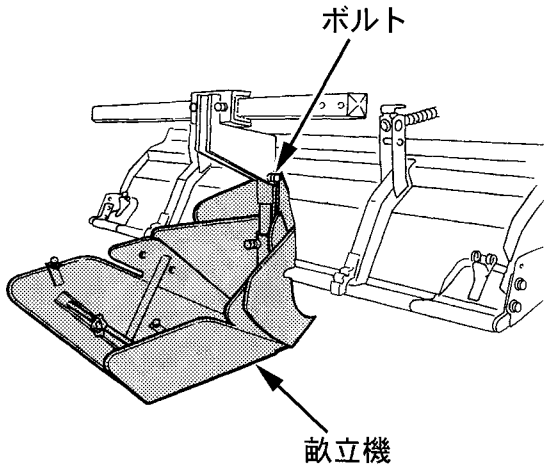
1. 爪の配列を２つ盛り耕法の配列にしてください。(**[２つ盛り耕法]**の項を参照)
2. リヤスタンドを外側方向へ格納してください。（スタンド仕様）



3. 後２輪を取外してください。
4. 後２輪ホルダを，下表にしたがって前後調整してください。

トラクタ型式	ホルダ１	ホルダ２
KT20，KT20J，KT22，KT22J，KT24，KT24J，KT27	前穴	３個目穴
KT27J，KT30，KT30J KT20PC，KT24PC，KT27PC，KT20-HN-8，KT24-HN，KT30-HN，KT24-HT	後穴	１個目穴

5. フラップカバーを取外してください。（**[ロータリカバーの調整]**の**[フラップカバーの取外し方]**の項を参照）
6. Vカバーを取外してください。（**[ロータリカバーの調整]**の**[Vカバーの取外し方]**の項を参照）
7. 畝立機に畝立金具をボルトで取付けてください。
8. 畝立金具を後２輪ホルダにピンでセットしてください。
9. スプリングロックを調整し，スプリングをフリーにするか又はスプリングを効かせて，ロータリカバー２を軽く地面に接触させてください。



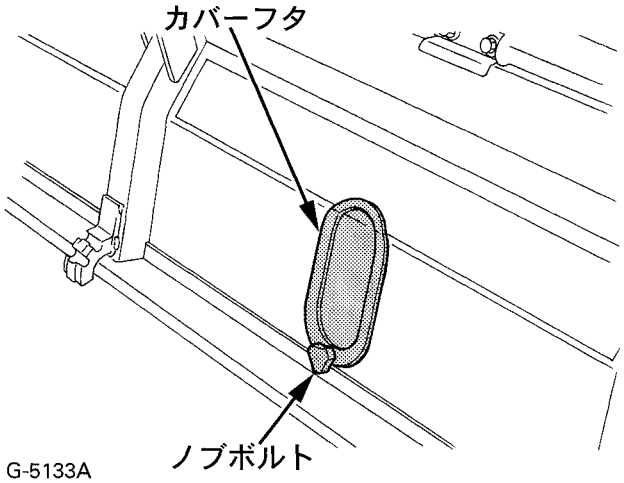
畝立機の取付け(別売アタッチメント)

■標準カバーの場合

1. 爪の配列を２つ盛り耕法の配列にしてください。(**[２つ盛り耕法]**の項を参照)
2. リヤスタンドを外側方向へ格納してください。（スタンド仕様）
3. 後２輪を取外してください。（後２輪仕様）
4. 後２輪ホルダを，下表にしたがって前後調整してください。

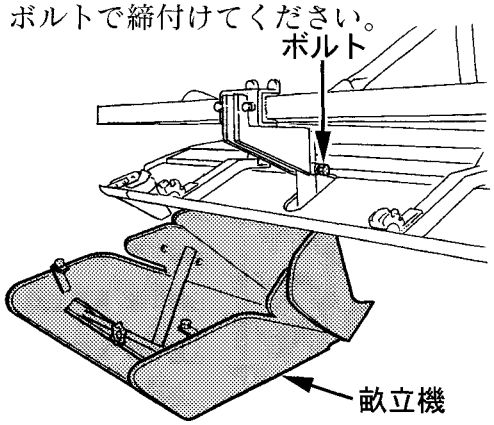
トラクタ型式	ホルダ１	ホルダ２
KT20, KT20J, KT22, KT22J, KT24, KT24J, KT27 KT27J, KT30, KT30J, KT20PC, KT24PC, KT27PC KT20-HN-8, KT24-HN, KT30-HN, KT24-HT	後穴	１個目穴

5. フラップカバーを取外してください。(**[ロータリカバーの調整]**の**[フラップカバーの取外し方]**の項を参照)
6. ノブボルトをゆるめて後部カバーのカバーフタを取外してください。



G-5133A

7. 後２輪ホルダに畝立金具をピンでセットしてください。
8. ロータリカバー２を上げ，オートハンガで固定してください。
9. 後部カバーの下側から畝立機を畝立金具に取付け，ボルトで締付けてください。



G-5134A

片培土機の取付け

注 意

＊片培土機の取付けは，必ずロータリを地上に近い位置に降ろし，キースイッチを[切]にして，エンジンを停止してから行なってください。
＊片培土機を使用しない場合は取外してください。（反転金具使用時を除く）
片培土機を上方に反転させての耕うん・移動は，傷害事故を引起こすおそれがあります。

重 要

＊反転金具ご使用時は，反転金具に添付された取扱要領書をご参照ください。

■取付け方

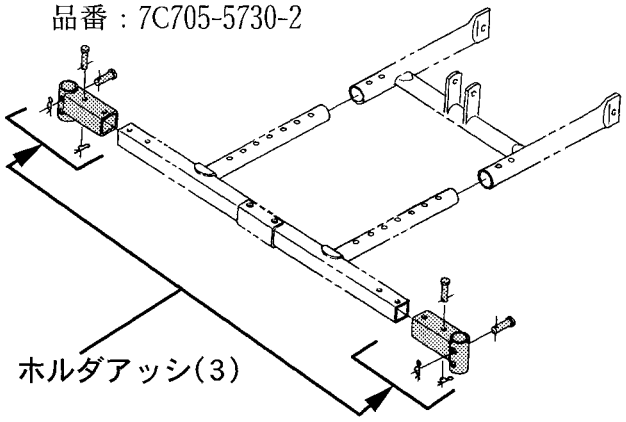
1. 後２輪の右側を取外してください。（後２輪仕様）
2. 後２輪ホルダを，下表にしたがって前後調整してください。
   ただし，V，SCVカバーで畝立機と併用する場合は，前後調整を畝立機に合わせてください。

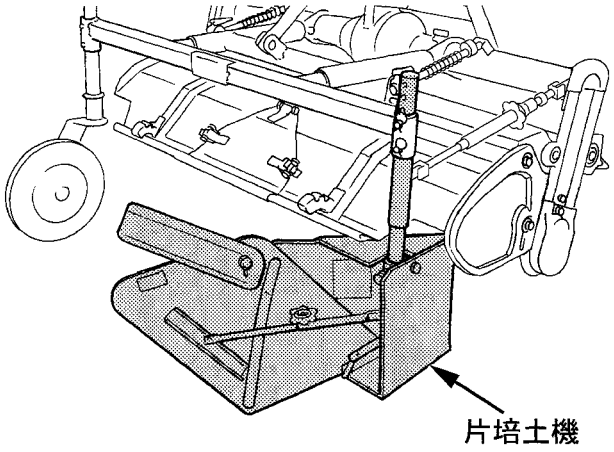
トラクタ型式	ホルダ１	ホルダ２
KT20, KT20J, KT22, KT22J, KT24, KT24J, KT27 KT27J, KT30, KT30J, KT20PC, KT24PC, KT27PC KT20-HN-8, KT24-HN KT30-HN, KT24-HT	後穴	１個目穴

3. フラップカバーを取外してください。(**[ロータリカバーの調整]**の**[フラップカバーの取外し方]**の項を参照)
4. 補助カバーの右側を取外してください。

片培土機の取付け

5. 片培土機を後２輪ホルダにピン２本でセットしてください。
   スタンド仕様は，別売のホルダアッシ(3)を使用してセットしてください。
   品名：ホルダアッシ(3)
   品番：7C705-5730-2





補　足

＊ロータリカバー(2)で整地しながら片培土作業をすると，引張り金具の長さが不足する場合がありますので，ロータリカバー(2)を片培土機の上に乗せてください。

逆転PTOの使用方法

トラクタの逆転PTOを使用して次の作業が行なえます。

1. 爪軸に巻付いた草を除去する。
   耕うん中に草などが巻付いて，耕深が取れなくなった場合，ロータリを持上げて，逆転での空転，正転での空転を数回繰返すと，草の巻付きがゆるみ取りやすくなります。
2. 軟弱地での土寄せ作業。
   代かき作業などを行なう軟弱なほ場で，泥などが盛上がった場合，逆転PTOを使用して前進しながら，土寄せを行なうと効果があります。このとき，エンジン回転数1300～1500rpm位で作業すると泥飛びも少なくなります。
   又，フロントカバーを下げるとさらに泥飛びが少なくなります。（**[ロータリの調整]**の**[フロントカバーの使用法]**の項を参照）

重　要

逆転PTOを使用して，次の作業は行なわないでください。ロータリ破損の原因になります。

＊逆転耕うん作業
＊未耕地及び石の多いほ場での土寄せ作業
＊ロータリの爪を逆に取付けて行なう耕うん作業

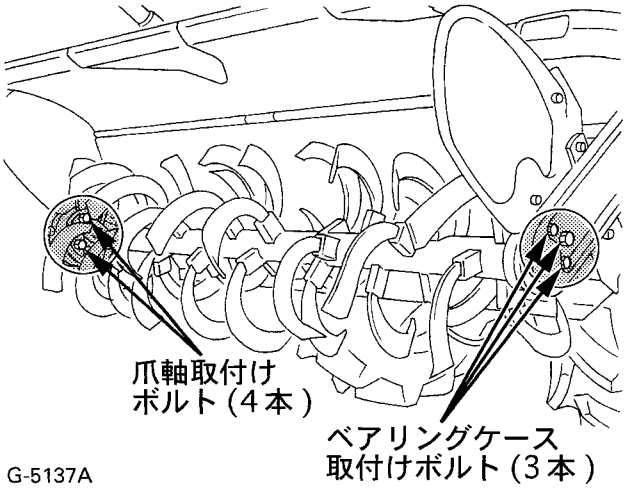
爪軸交換のしかた

注 意

傷害事故の防止のため，爪軸交換をする場合，次のことを守ってください。
＊トラクタを平たんな広い場所に置く。
＊エンジンを止め，駐車ブレーキを掛ける。
＊ロータリを持上げ，落下調整グリップを右いっぱいに回して締込む。

[RL仕様]

1. チェーンケース側爪軸取付けボルト(4本)，及びサイドフレーム側ベアリングケース取付けボルト(3本)をゆるめてください。
2. 落下調整グリップを少し左に回し，耕うん爪が水平地面上に付くまでゆっくりと降ろした後で，ボルトを7本外して爪軸を交換してください。



G-5137A

重 要

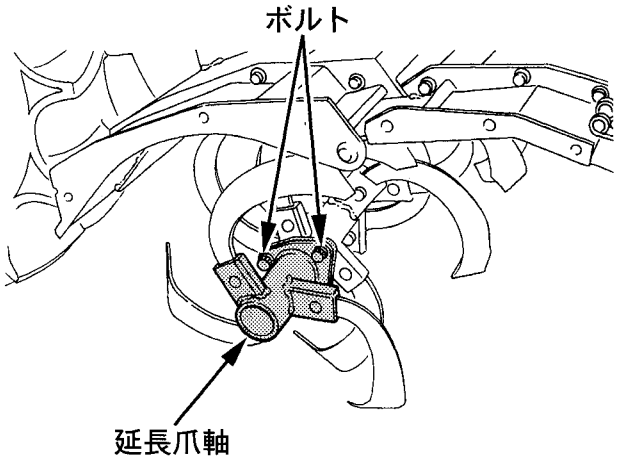
＊取付けは，外したボルトが作業中にゆるまないように，確実に締付けてください。

[締付けトルク]

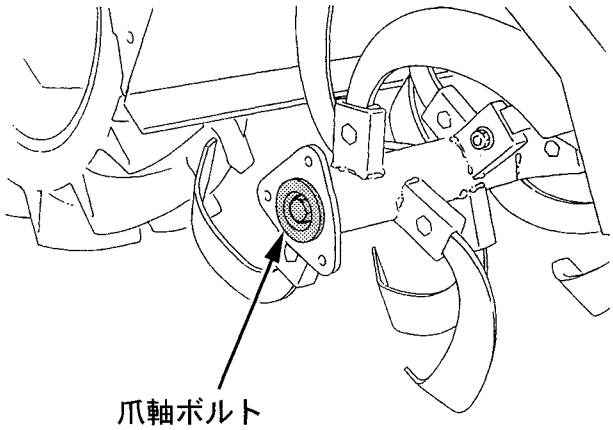
- 爪軸取付けボルト
  78.5 ～93.0 N·m (800 ～950 kgf·cm)
- ベアリングケース取付けボルト
  78.5 ～88.0 N·m (800 ～900 kgf·cm)

[R仕様]

1. 延長爪軸付(別売オプション)ロータリは，延長爪軸を取外してください。(左右各3本)

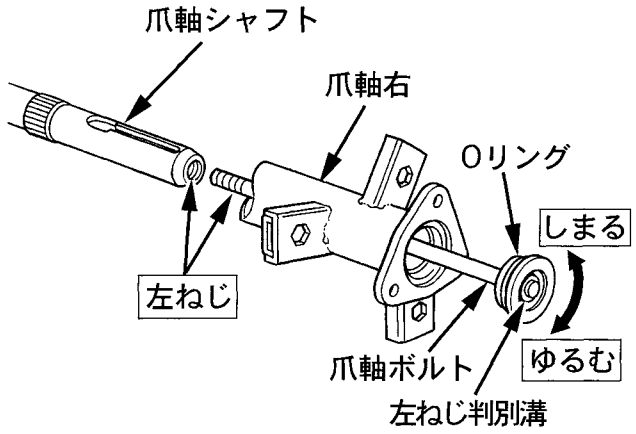


2. 爪軸ボルト(左右各1本)を外して，爪軸を交換してください。



補 足

＊右側の爪軸ボルトは左ねじです。



爪軸交換のしかた

重　要

＊取付けは，外したボルトが作業中にゆるまないように，確実に締付けてください。

【締付けトルク】

- 延長爪軸取付け用ボルト
  78.5～88.0 N·m (800～900 kgf·cm)
- 爪軸ボルト
  135.0～145.0 N·m (1400～1500 kgf·cm)

普通爪の使用

重　要

＊マッドレスロータリ(SCV仕様)には使用できません。

＊普通爪を使用されるときは，草巻付き防止ワイヤは使用できませんので使用しないでください。

雑草やゴミなどの少ない乾田耕起用として普通爪を使うと，消費馬力が少なくてすみ，その上細土がより細かくなります。

ロータリ型式 / セット品番 / 普通爪	RL4T (H)	RL5T (H) RL6T (H) RL7T (H)
セット品番	――	99762 -4940-6
518号 99542-4941-1	30本	34本
514号増幅R, L (R)99542-4944-1 (L)99542-4943-1	各1本	

※セット品番には，爪取付け部品(ボルト，ナット)は含みません。

作業前の点検について(日常点検)

点検箇所

警 告

＊安全カバー類を外した状態でロータリを使用しないでください。また，紛失したり損傷した場合，交換してください。巻込まれや切傷事故の原因になります。

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
日常点検は毎日欠かさず行なってください。
※印は，別途作業要領が説明してあります。

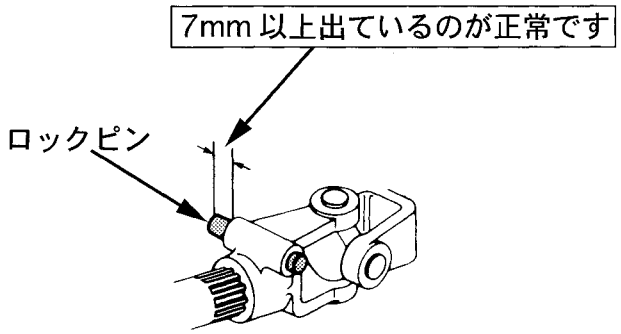
■点検は次の順序で実施してください。

(1)前日，前使用時の異常箇所。
(2)ロータリの点検ポイント。
＊爪及び爪軸取付けボルトのゆるみ
＊つきま線のゆるみ
＊ロータリ各部のボルト・ナットのゆるみ
＊ユニバーサルジョイントのロックピンの確認 …… ※
＊油もれ

点検のしかた

■ユニバーサルジョイントのロックピンの確認

ロックピンが正確に溝にはまったかどうかの確認は，ピンの頭が7mm以上出ているかどうかを調べてください。



G-1574A

ロータリの簡単な手入れと処置

廃棄物の処理について

警 告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
＊機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊廃油，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

定期点検箇所一覧表

次の定期点検表に従って，必ず定期点検を実施してください。

注 意

傷害事故の防止のため，点検整備をする場合，次のことを守ってください。
＊トラクタを平たんな広い場所に置く。
＊エンジンを止め，駐車ブレーキを掛ける。
＊ロータリの落下防止のため，落下調整グリップを右いっぱいに回して締込む。
＊爪軸の下に木の台などをし，より安全性を確保する。

No.	点検項目		アワーメータの表示時間						参照ページ
			50	100	150	200	250	300	
1	ギヤーケース [RL仕様]	油量点検		○	○	○	○		39
		オイル交換	◎					○	
2	チェーンケース [RL仕様]	油量点検		○	○	○	○		40
		オイル交換	◎					○	
3	ロータリケース [R仕様]	油量点検		○	○	○	○		40, 41
		オイル交換	◎					○	
4	グリースの補給 ●ユニバーサルジョイント ●アジャスタ(後２輪調整ネジ部) ●ホルダ(ジョイント)，ロータリ入力軸（スーパージョイント付） ●後２輪のグリースニップル部 注油 ●オートヒッチフレーム各回動部 ●オートハンガしゅう動部，回動部 ●つきま部のU金具 ●フロントカバー回動部		○	○	○	○	○	○	41, 42
5	グリースの補給 ●爪軸ベアリングケース[RL仕様]				○			○	43

[注] ◎印は，ならし運転時の50時間使用後に，必ず行なってください。

各部の油量点検と交換

使用するギヤーオイルは，必ず**[クボタ純オイル]**を使用してください。(**[推奨オイル・グリース一覧表]**の項を参照)

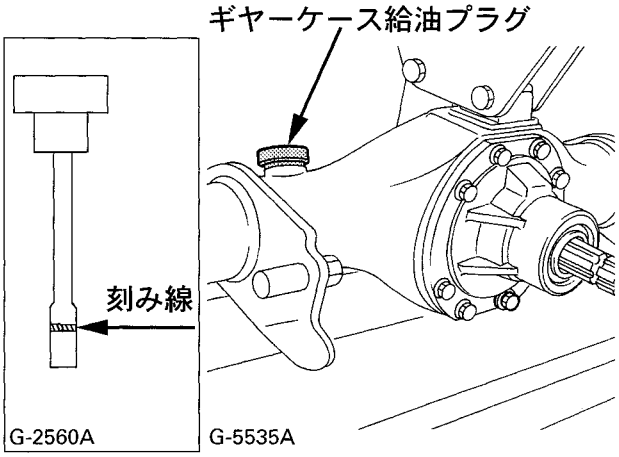
補　足

＊点検するときは，ロータリをトラクタに装着したまま，水平な地面に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。

■ギヤーケース[RL仕様]

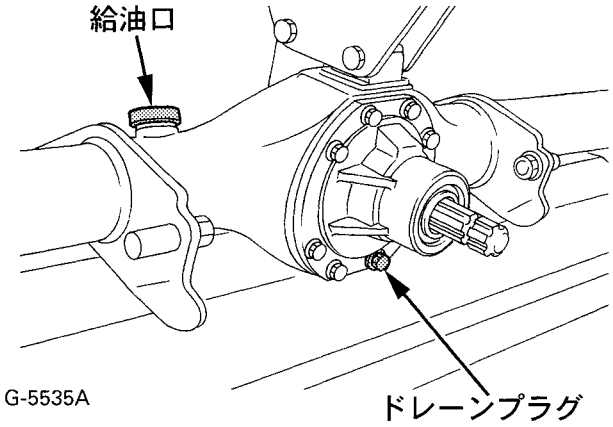
◆油量点検のしかた

1. ロータリを降ろして給油プラグを抜き，オイルゲージの先端をきれいにふいて差込んでから再び抜き，**[刻み線]**までオイルがあるかを調べてください。
2. 刻み線以下の場合は補給してください。



◆交換のしかた（2.5L）

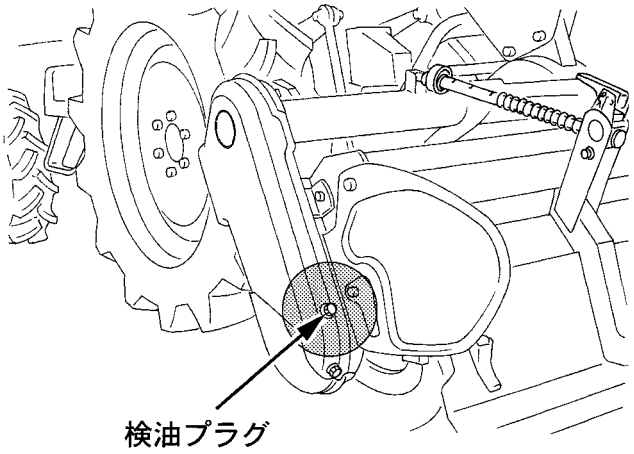
1. ドレーンプラグを外してオイルを出してください。
   オイルが抜けたらドレーンプラグをしっかりと締付けてください。ゴム座金に変形や損傷がある場合は，すみやかに交換してください。
2. ギヤーオイルを給油口から，規定量入れてください。



■チェーンケース[RL仕様]

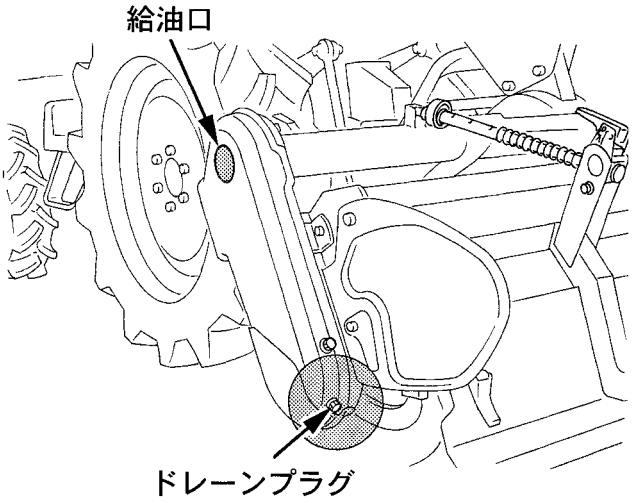
◆油量点検のしかた

1. ロータリを降ろして検油プラグを外し，検油口までオイルがあるか調べてください。
2. 検油口以下の場合は補給しますが，検油口以上には入れないでください。



◆交換のしかた（1.2L）

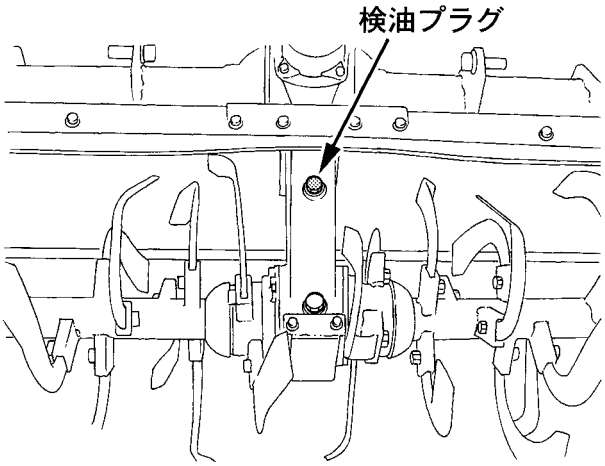
1. ドレーンプラグを外してオイルを出してください。
   オイルが抜けたらドレーンプラグをしっかりと締付けてください。ゴム座金に変形や損傷がある場合は，すみやかに交換してください。
2. ギヤーオイルを給油口から，規定量入れてください。



■ロータリケース[R仕様]

◆油量点検のしかた

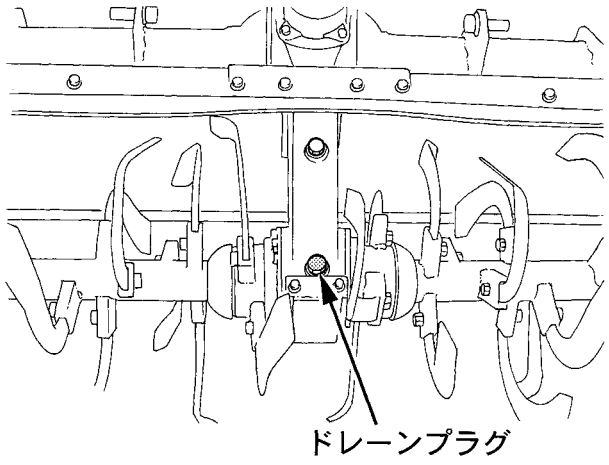
1. ロータリを降ろして検油プラグを外し，検油口までオイルがあるか調べてください。
2. 検油口以下の場合は補給しますが，検油口以上には入れないでください。

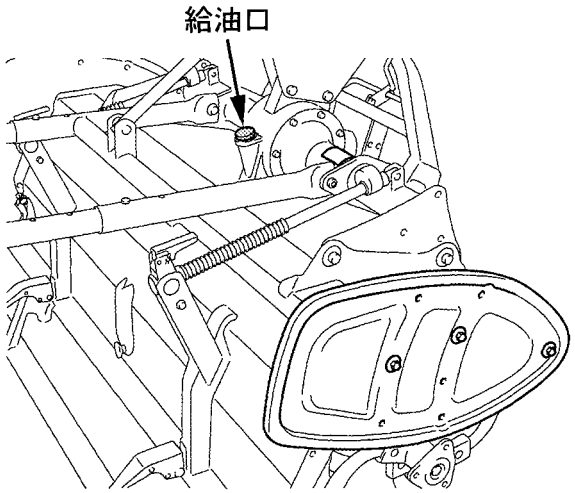


各部の油量点検と交換

◆交換のしかた（2.0L）

1. ドレーンプラグを外してオイルを出してください。
   オイルが抜けたらドレーンプラグをしっかりと締付けてください。ゴム座金に変形や損傷がある場合は，すみやかに交換してください。
2. ギヤーオイルを給油口から，規定量入れてください。





グリースの補給と注油

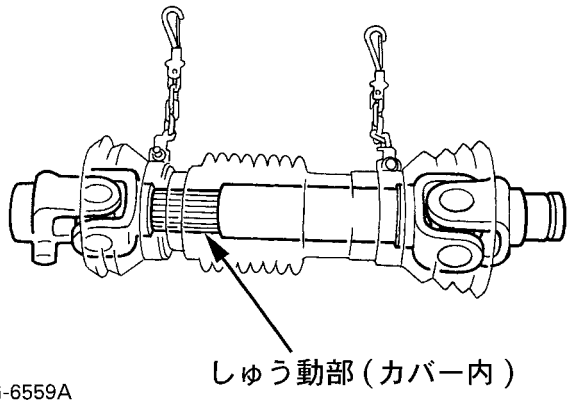
通常のグリースアップは，定期点検箇所一覧表に従って行なってください。但し，代かき作業などで泥水に入ったときは，作業終了後必ずグリースアップをしておきましょう。
グリースは，**[クボタ推奨グリース]**を使用してください。(**[推奨オイル・グリース一覧表]**の項を参照)

■ユニバーサルジョイント

しゅう動部は，ジョイントのオス・メス部を切離して補給してください。

補　足

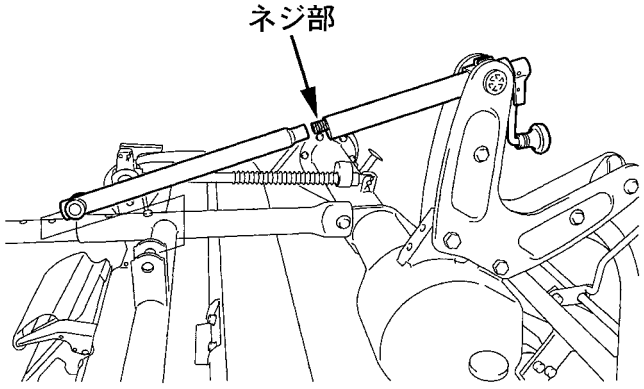
＊PTO軸・ロータリ側の軸にも，薄く塗布してください。



G-6559A

■アジャスタ(後２輪調整ネジ部)

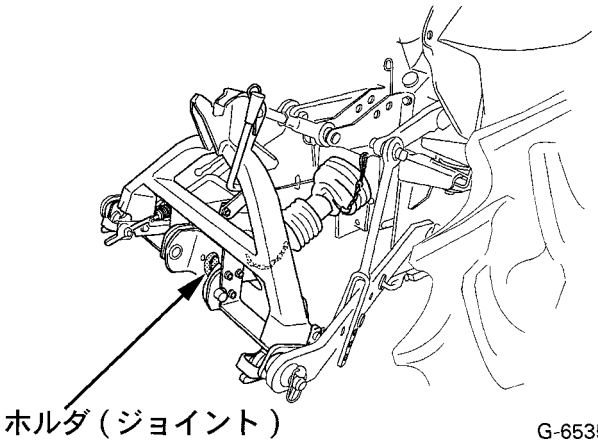
グリースを適量補給してください。
(トラクタにロータリを装着した状態で，アジャスタと調整ネジを切離して，ネジ部にグリースを塗布します。)



グリースの補給と注油

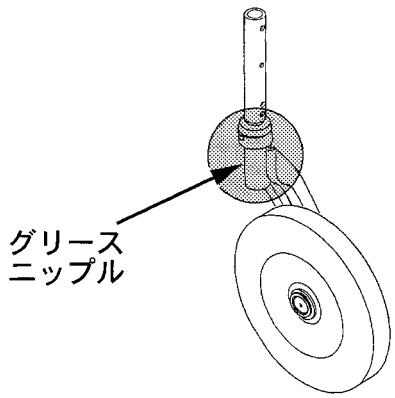
■ホルダ(ジョイント)
[スーパージョイント付き], ロータリ入力軸

1. 湿田耕うんや代かき作業後は，必ずロータリを切離し，ホルダ(ジョイント)内とロータリ入力軸の，泥をきれいに水で洗い流し，下図の箇所にグリースを適量塗布してください。
2. 定期的にロータリを切離し，ホルダ(ジョイント)とロータリ入力軸の，下図の箇所にグリースを適量塗布してください。

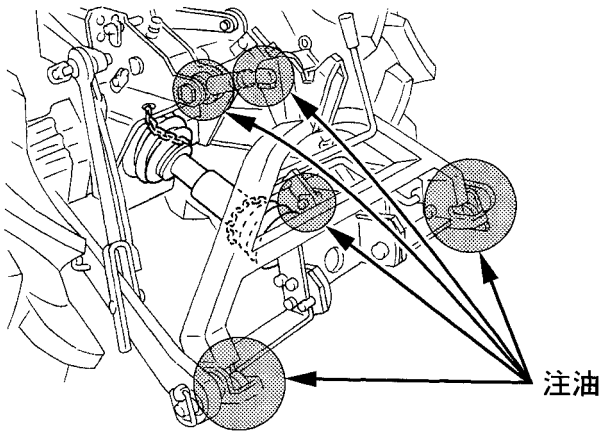


G-6535C

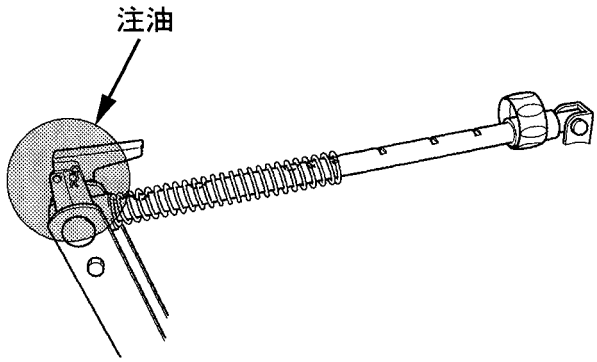
■後2輪のグリースニップル部



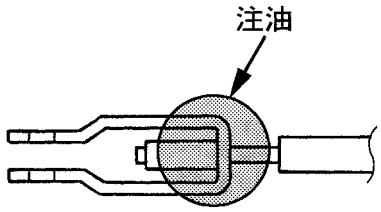
■オートヒッチフレーム，トップリンク各回動部



■オートハンガしゅう動，回動部

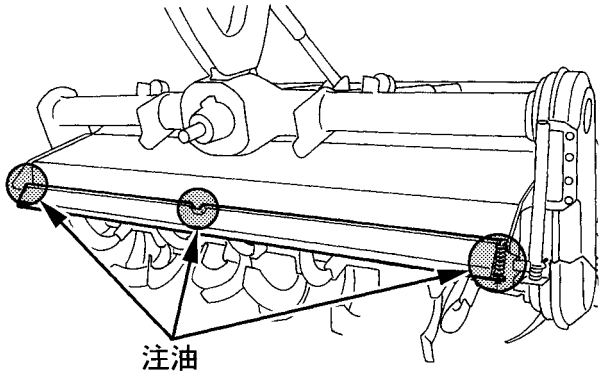


■つきま部のU金具



G-4674A

■フロントカバー回動部

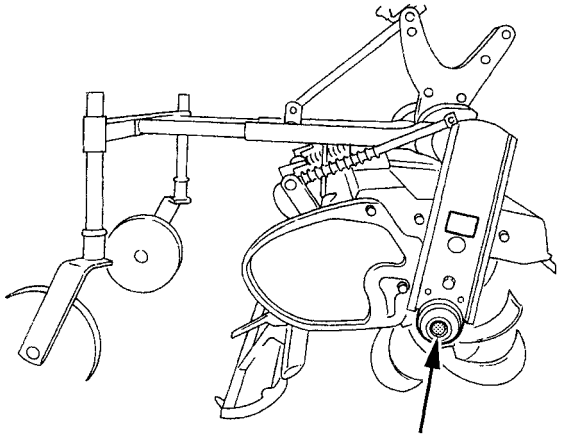


G-5530B

グリースの補給と注油

■爪軸ベアリングケース[RL仕様]

サイドフレームの保護カバーとキャップを外し，ベアリンググリースを補給します。



シールの組換え

整備などの目的でギヤーケース，チェーンケースなどを分解される場合は，必ず新しいオイルシール，ゴムキャップ，ゴム付座金，液状ガスケットなどと交換してください。オイルもれの原因となります。

液状ガスケットはスリーボンド1206B又は1208D相当品を使用してください。

付　表

主要諸元

■標準ロータリ

型式		RL4T	RL5T	RL6T	RL7T	R5T
駆動方式		サイドドライブ				センタドライブ
機体寸法※1	全長(mm)(後2輪仕様)	1020 (1250)				(1280)
	全幅(mm)	1560	1660	1760	1860	1575
	全高(mm)	1060				1070
質量(kg)※2 (後2輪仕様) <SCV仕様>		212 (226) ‹246›	220 (234) ‹252›	226 (240) ‹261›	236 (250) ‹270›	(248)
適応トラクタ kW(PS)		KT20～27 14.7～19.8 (20～27)	KT20～30 14.7～22.1 (20～30)		KT22～30 16.2～22.1 (22～30)	KT20～30 14.7～22.1 (20～30)
標準耕幅(cm)		141	151	161	172	149
標準耕深(cm)		～18				
標準作業速度(km/h)		0.5～4.0				
入力軸回転数(rpm)		471～1227				
変速の有無		無				
装着装置の種類		日農工特殊3P-B型オートヒッチフレーム				
耕うん爪取付方法		ホルダタイプ				
耕うん爪の種類と本数		501号 なた爪 R・L各15本	501号 なた爪 R・L各17本	501号 なた爪 R・L各17本	501号 なた爪 R・L各17本	581号 なた爪 R・L各18本
		503号増幅爪 R・L各1本				544号 変形爪 R・L各1本
耕うん爪の外径(cm)		50				
耕深調節機構		後方双尾輪式，モンローマチックオート式(モンローマチックオート付の場合)				
耕うん作業能率(分/10a) $\frac{6000}{w \cdot V \cdot E}$ ※3		14～113	13～106	12～99	12～93	13～107

※1：最縮状態，オートヒッチフレーム付き
※2：オートヒッチフレーム付き，補助ユニット無し
※3：w：標準耕幅(cm)，V：標準作業速度(km/h)，E：ほ場作業効率(0.75)

主要諸元

■ハイクリアランス仕様

型式		RL4TH	RL5TH	RL6TH	RL7TH	R5TH
駆動方式		サイドドライブ				センタドライブ
機体寸法※1	全長(mm)(後2輪仕様)	1020 (1250)				(1280)
	全幅(mm)	1560	1660	1760	1860	1575
	全高(mm)	1150				1160
質量(kg)※2 (後2輪仕様)<SCV仕様>		212 (226) ‹246›	220 (234) ‹252›	226 (240) ‹261›	236 (250) ‹270›	(248)
適応トラクタ kW(PS)		KT20-HN-8, KT24HN, HT 14.7～17.6 (20～24)	KT20-HN-8, KT24-HN, HT KT30-HN 14.7～22.1 (20～30)		KT24-HN, HT KT30-HN 17.6～22.1 (24～30)	KT20-HN-8, KT24-HN, HT KT30-HN 14.7～22.1 (20～30)
標準耕幅(cm)		141	151	161	172	149
標準耕深(cm)		～18				
標準作業速度(km/h)		0.5～4.0				
入力軸回転数(rpm)		507～1180				
変速の有無		無				
装着装置の種類		日農工特殊3P-B型オートヒッチフレーム				
耕うん爪取付方法		ホルダタイプ				
耕うん爪の種類と本数		501号 なた爪 R・L各15本	501号 なた爪 R・L各17本	501号 なた爪 R・L各17本	501号 なた爪 R・L各17本	581号 なた爪 R・L各18本
		503号増幅爪 R・L各1本				544号 変形爪 R・L各1本
耕うん爪の外径(cm)		50				
耕深調節機構		後方双尾輪式，モンローマチックオート式(モンローマチックオート付の場合)				
耕うん作業能率(分/10a) $\frac{6000}{w \cdot V \cdot E}$ ※3		14～113	13～106	12～99	12～93	13～107

※1：最縮状態，オートヒッチフレーム付き
※2：オートヒッチフレーム付き，補助ユニット無し
※3：w：標準耕幅(cm)，V：標準作業速度(km/h)，E：ほ場作業効率(0.75)

■標準ロータリ・ハイクリアランス仕様

PTO／耕うん軸回転数 トラクタ型式名	耕うん軸回転数(rpm)									
	RL4T(H), RL5T(H), RL6T(H), RL7T(H)					R5T(H)				
	540rpm	F1	F2	F3	R1	540rpm	F1	F2	F3	R1
KT20	167	165	238	351	200	156	154	223	329	188
KT22	167	171	248	365	208	156	161	232	343	196
KT24, KT27, KT20PC, KT24PC, KT27PC, KT20-HN-8, KT24-HN, KT24-HT, KT30-HN	167	162	235	365	198	156	152	220	343	185
KT30	167	168	244	379	205	156	158	229	356	192
KT20F	167	145	211	328	240	156	136	198	307	226
KT22F, KT24F, KT27F, KT20F-HN-8, KT24F-HN, KT24F-HT, KT30F-HN	167	151	219	340	250	156	142	205	320	235
KT30F	167	157	227	353	260	156	147	213	332	244

付　表

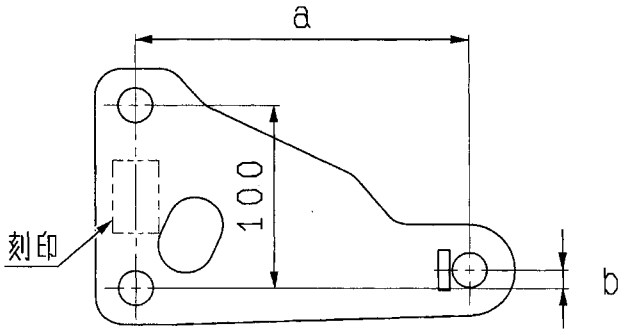
主要諸元

■標準付属品

取扱説明書	1
保証書	1
スパナ（8-12）	※1

※RL仕様のみ

■補助ユニット一覧表



トラクタ型式	補助ユニット	トップリンクサポート品番	a寸法（mm）	b寸法（mm）
KT20，KT20J，KT22，KT22J，KT24	UKT20（Q）-6RF	7A200-51411	185	51.5
KT24J	UKT24J（Q）-6RF	7A200-53411	182	10
KT27，KT27J，KT30，KT30J，KT20PC，KT24PC，KT27PC	UKT30（Q）-6RF	7A200-55411	206	23.5
KT20-HN-8，KT24-HN，KT30-HN，KT24-HT	UKT20H-6RF	7A200-53411	182	10

アタッチメント一覧表

分類	品番	品名	用途・仕様	併用アタッチメント	適応型式								
					RL4T(H)		RL5T(H)		RL6T(H)		RL7T(H)		R5T(H)
					標準V	SCV	標準V	SCV	標準V	SCV	標準V	SCV	標準V
耕うん	7A104-5545-1	耕うん爪セット	501号R・L各15本 503号R・L各1本		○	○							
	7A105-5545-1	耕うん爪セット	501号R・L各17本 503号R・L各1本				○	○	○	○	○	○	
	99032-4910-1	なた爪セット	581号R・L各18本 544号R・L各1本										○
	99272-6800-1	200延長爪軸アッシ	左右各10cm延長										○
	99272-6900-1	300延長爪軸アッシ	左右各15cm延長										○
	70461-5555-1	爪取付部品1	ボルト・ナット・バネ座金各1個		○ 30	○ 30	○ 34	○ 34	○ 34	○ 34	○ 34	○ 34	○ 36
ん	7C705-5555-1	爪取付部品1	ボルト(草切爪用) ナット・バネ座金各1個		○ 2	○ 2	○ 2	○ 2	○ 2	○ 2	○ 2	○ 2	○ 2

付　表

アタッチメント一覧表

■兼用品

分類	品番	品名	用途・仕様	併用アタッチメント	適応型式 RL4T(H) 標準	RL4T(H) V	RL4T(H) SCV	RL5T(H) 標準	RL5T(H) V	RL5T(H) SCV	RL6T(H) 標準	RL6T(H) V	RL6T(H) SCV	RL7T(H) 標準	RL7T(H) V	RL7T(H) SCV	R5T(H) 標準	R5T(H) V
整地	70154-9903-2	波板整地板 14アッシ	●整地幅 140cm		○	○	○											
整地	70155-9903-2	波板整地板 15アッシ	●整地幅 150cm					○	○	○							○	○
整地	70156-9903-2	波板整地板 16アッシ	●整地幅 160cm								○	○	○					
整地	70157-9903-2	波板整地板 17アッシ	●整地幅 170cm											○	○	○		
整地	99351-6300-1	KL-15N 波形スイング整地板	●延長幅150cm ●延長各40cm付		○	○	○											
整地	99361-6300-1	KL-16N 波形スイング整地板	●延長幅160cm ●延長各40cm付					○	○	○							○	○
整地	99371-6300-1	KL-17N 波形スイング整地板	●延長幅170cm ●延長各40cm付								○	○	○					
整地	99381-6300-1	KL-18N 波形スイング整地板	●延長幅180cm ●延長各40cm付											○	○	○		
整地	99451-6300-1	KL-15K くし付整地カバー	●延長幅150cm ●延長各40cm付		○	○	○											
整地	99461-6300-1	KL-16K くし付整地カバー	●延長幅160cm ●延長各40cm付					○	○	○							○	○
整地	99471-6300-1	KL-17K くし付整地カバー	●延長幅170cm ●延長各40cm付								○	○	○					
整地	99481-6300-1	KL-18K くし付整地カバー	●延長幅180cm ●延長各40cm付											○	○	○		
畝立て	99042-1770-1	７号畝立て金具(03)	—	畝立機	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
畝立て	99622-7100-1	片培土機(KT)	●溝幅16cm	前部ウエイトアッシ ホルダアッシ(3)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
畝立て	99632-7100-1	片培土機(KT) ブラケット付	●溝幅16cm	前部ウエイトアッシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
畝立て	99662-7100-1	反転片培土機 アッシ(KT)	●溝幅16cm	前部ウエイトアッシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
畝立て	99672-7100-1	片培土反転 金具(KT)	—		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
畝立て	99512-7370-1	40号培土機	●２連畝立機 溝幅12cm	２連畝立金具 前部ウエイトアッシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
畝立て	99772-1570-1	２連畝立て金具	—	40号培土機	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
畝立て	99042-1370-1	４号畝立機(03)	●溝幅 12cm ●底板 無 ●羽根長さ 85.4cm	Vカットなしの場合：７号畝立て金具 Vカットの場合：畝立て反転金具又は７号畝立て金具 前部ウエイトアッシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
畝立て	99042-1470-1	５号畝立機(03)	●溝幅 15cm ●底板 無 ●羽根長さ 86.5cm		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
畝立て	99042-1170-1	７号畝立機(03)	●溝幅 21cm ●底板 無 ●羽根長さ 92cm		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

アタッチメント一覧表

分類	品番	品名	用途・仕様	併用アタッチメント	適応型式													
					RL4T (H)			RL5T (H)			RL6T (H)			RL7T (H)			R5T (H)	
					標準	V	SCV	標準	V	SCV	標準	V	SCV	標準	V	SCV	標準	V
畝立て	99022-1370-1	Vカット４号畝立機(03)	●溝幅 12cm ●底板 無 ●羽根長さ 85.4cm	Vカット用畝立て反転金具又は７号畝立て金具前部ウエイトアッシ		○	○		○	○		○	○		○	○		○
	99022-1470-1	Vカット５号畝立機(03)	●溝幅 15cm ●底板 無 ●羽根長さ 86.5cm			○	○		○	○		○	○		○	○		○
	99022-1170-1	Vカット７号畝立機(03)	●溝幅 21cm ●底板 無 ●羽根長さ 92cm			○	○		○	○		○	○		○	○		○
	99052-1700-1	Vカット用畝立て反転金具	★キャブ付トラクタへの装着不可	畝立機		○	○		○	○		○	○		○	○		○
後２輪	7A205-5700-1	後２輪アッシ(RL5T)	サイドロータリ用ホルダ,アッシ(3)も含む(後２輪仕様以外)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	7C705-5730-2	ホルダアッシ(3)	片培土装着時必要サイドロータリ用(後２輪仕様以外)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
耕うん	99514-5700-0	残耕処理爪アッシ	あぜ際の残耕処理		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	99272-6400-1	つきま線,アッシ(5)	草,わらの巻付き防止														○	○

推奨オイル・グリース一覧表

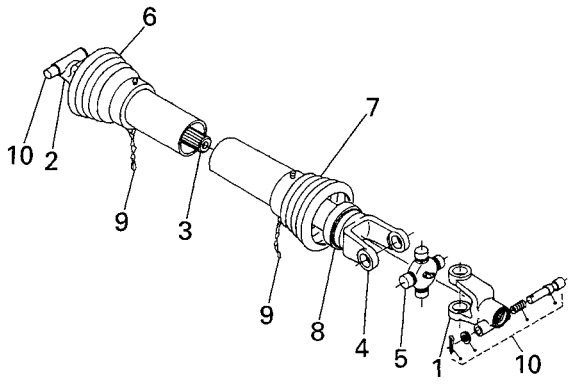
■ギヤーオイル90番

メーカ	ギヤーオイル
新日本石油	クボタ純オイル(ミッション用)M90
コスモ石油	クボタ純オイル(ミッション用)M90
ジャパンエナジー	クボタ純オイル(ミッション用)M90
昭和シェル石油	クボタ純オイル(ミッション用)M90
富士興産	クボタ純オイル(ミッション用)M90

■グリース

メーカ	商品名	用途
新日本石油	エピノックグリースAP2	極圧（万能）グリース
コスモ石油	ダイナマックスEP2	
ジャパンエナジー	JOMOリゾニックスEP2	
昭和シェル石油	アルバニヤEPグリース2	
富士興産	フッコールEP2	
出光興産	ダフニーエポネックスSR2	
モービル	モービラックスEP2	
エッソ／ゼネラル	ビーコンEP2	
協同油脂	マルテンプPS2	ホーン接点用グリース

主な消耗部品一覧表



G-3312A改

UKT20-6RF (KT20(J), 22(J), 24)

図番	品　　名	品　番	個数
◉	ユニバーサルジョイント,アッシ	7A200-51101	1
1	ジョイントヨークR	79105-05921	1
2	ジョイントヨークT	79105-05812	1
3	シャフト（ヨーク）	7A200-51111	1
4	スリーブ（ヨーク）	7A200-51121	1
5	ベアリング（スパイダ）	7F706-71021	2
6	カバー,アッシ（セーフティ,S）	7A200-51131	1
7	カバー,アッシ（セーフティ,L）	7A200-51151	1
8	スライド　リング	70870-43171	2
9	チェーンアッシ	70815-58221	2
10	ロックピンアッシ	70678-58221	2

UKT24J-6RF (KT24J)

図番	品　　名	品　番	個数
◉	ユニバーサルジョイント,アッシ	7A200-51101	1
1	ジョイントヨークR	79105-05921	1
2	ジョイントヨークT	79105-05812	1
3	シャフト（ヨーク）	7A200-51111	1
4	スリーブ（ヨーク）	7A200-51121	1
5	ベアリング（スパイダ）	7F706-71021	2
6	カバー,アッシ（セーフティ,S）	7A200-51131	1
7	カバー,アッシ（セーフティ,L）	7A200-51151	1
8	スライド　リング	70870-43171	2
9	チェーンアッシ	70815-58221	2
10	ロックピンアッシ	70678-58221	2

UKT30-6RF (KT27(J), 30(J), 20PC, 24PC, 27PC)

図番	品　　名	品　番	個数
◉	ユニバーサルジョイント,アッシ	7A200-55101	1
1	ヨーク	70857-58131	1
2	ヨーク	70857-58121	1
3	シャフト（ヨーク）	7A200-55111	1
4	スリーブ（ヨーク）	7A200-55121	1
5	スパイダアッシ	70531-52251	2
6	カバー,アッシ（セーフティ,S）	7A200-55131	1
7	カバー,アッシ（セーフティ,L）	7A200-55151	1
8	スライド　リング	70857-58281	2
9	チェーンアッシ	70815-58221	2
10	ロックピンアッシ	70678-58221	2

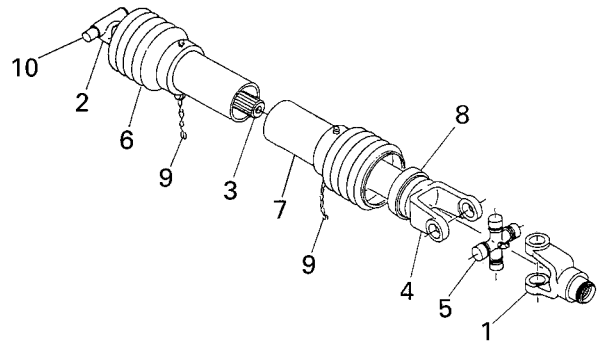
UKT20H-6RF
(KT20-HN-8, KT24HN, KT30-HN, KT24HT)

図番	品　　名	品　番	個数
◉	ユニバーサルジョイント,アッシ	70867-58115	1
1	ヨーク	70857-58121	1
2	ヨーク	70857-58131	1
3	シャフト（ヨーク）	70867-58122	1
4	スリーブ（ヨーク）	70857-58143	1
5	スパイダアッシ	70531-52251	2
6	プロテクティブカバーS	70857-58232	1
7	プロテクティブカバーL	70867-58241	1
8	スライド　リング	70857-58281	2
9	チェーンアッシ	70815-58221	2
10	ロックピンアッシ	70678-58221	2

注）図番６と７は，それぞれ８を含むアッシ番号

付　表

主な消耗部品一覧表



G-3704A改

UKT20Q-6RF (KT20(J), 22(J), 24)

図番	品　　名	品　番	個数
◉	ユニバーサルジョイント,アッシ	7A200-52101	1
1	ヨーク (SJ)	7A100-52231	1
2	ジョイントヨークT	79105-05812	1
3	シャフト (ヨーク)	7A200-51111	1
4	スリーブ (ヨーク)	7A200-51121	1
5	ベアリング (スパイダ)	7F706-71021	2
6	カバー,アッシ (セーフティ,S)	7A200-51131	1
7	カバー,アッシ (セーフティ,L)	7A200-51151	1
8	スライド　リング	70870-43171	2
9	チェーンアッシ	70815-58221	2
10	ロックピンアッシ	70678-58221	1

UKT24JQ-6RF (KT24J)

図番	品　　名	品　番	個数
◉	ユニバーサルジョイント,アッシ	7A200-52101	1
1	ヨーク (SJ)	7A100-52231	1
2	ジョイントヨークT	79105-05812	1
3	シャフト (ヨーク)	7A200-51111	1
4	スリーブ (ヨーク)	7A200-51121	1
5	ベアリング (スパイダ)	7F706-71021	2
6	カバー,アッシ (セーフティ,S)	7A200-51131	1
7	カバー,アッシ (セーフティ,L)	7A200-51151	1
8	スライド　リング	70870-43171	2
9	チェーンアッシ	70815-58221	2
10	ロックピンアッシ	70678-58221	1

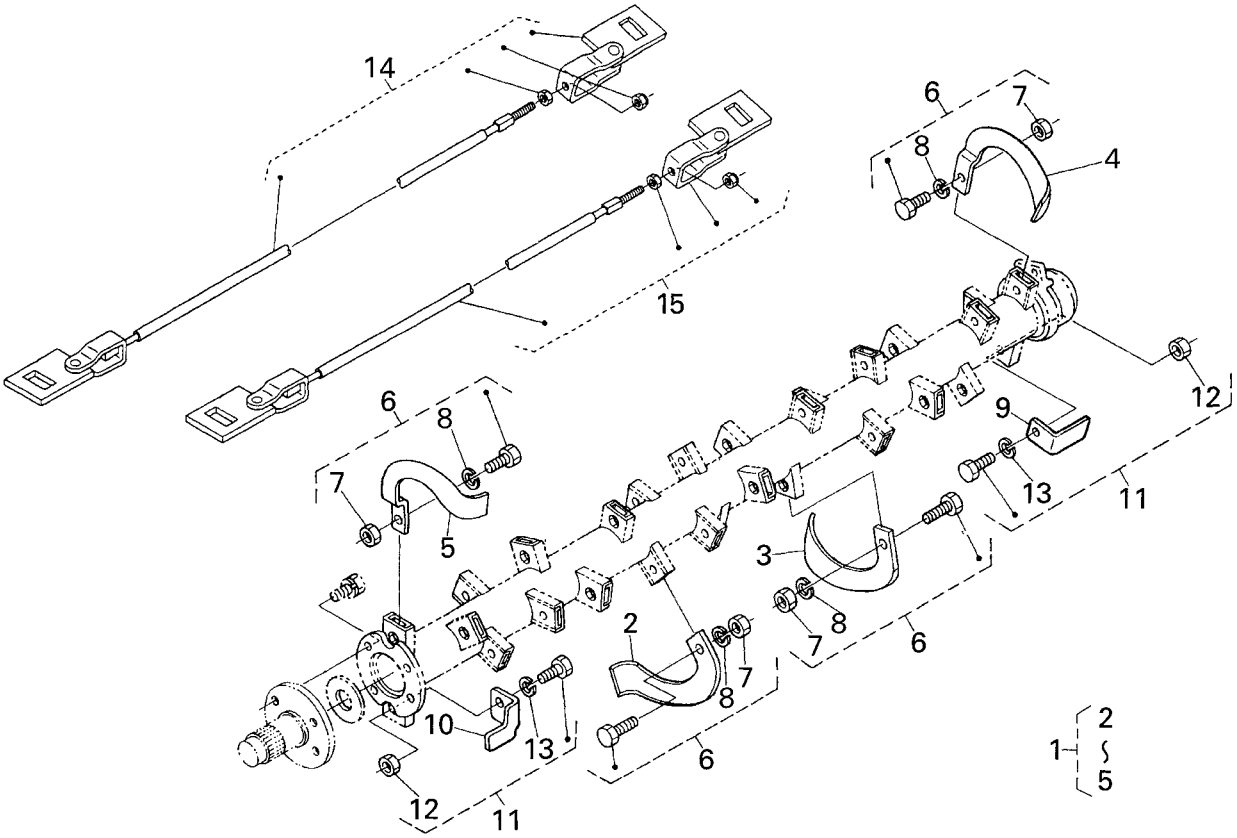
注）図番６と７は，それぞれ８を含むアッシ番号

UKT30Q-6RF (KT27(J), 30(J), 20PC, 24PC, 27PC)

図番	品　　名	品　番	個数
◉	ユニバーサルジョイント,アッシ	7A200-56101	1
1	ヨーク (SJ)	7A100-54221	1
2	ヨーク	70857-58121	1
3	シャフト (ヨーク)	7A200-55111	1
4	スリーブ (ヨーク)	7A200-55121	1
5	スパイダアッシ	70531-52251	2
6	カバー,アッシ (セーフティ,S)	7A200-55131	1
7	カバー,アッシ (セーフティ,L)	7A200-55151	1
8	スライド　リング	70857-58281	2
9	チェーンアッシ	70815-58221	2
10	ロックピンアッシ	70678-58221	1

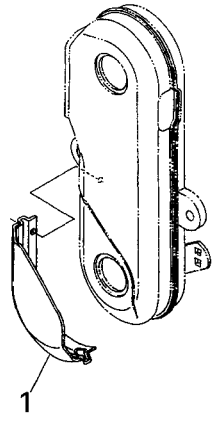
主な消耗部品一覧表

◆RL仕様



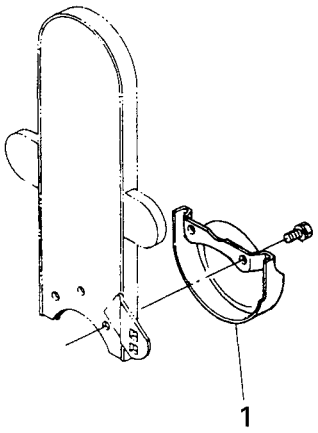
図番	品　名	品　番	数量				備　考
			RL4T (H)	RL5T (H)	RL6T (H)	RL7T (H)	
1	耕うん爪セット	7A104-5545-1	1	—	—	—	②～⑤
1	耕うん爪セット	7A105-5545-1	—	1	1	1	②～⑤
2	耕うん爪（501右）	7A105-5541-1	15	17	17	17	
3	耕うん爪（501左）	7A105-5542-1	15	17	17	17	
4	耕うん爪（503右）	7A105-5543-1	1	1	1	1	
5	耕うん爪（503左）	7A105-5544-1	1	1	1	1	
6	爪取付け部品 1	70461-5555-1	30	34	34	34	⑦⑧
7	爪取付けナット	64135-9519-3	30	34	34	34	
8	バネ座金	04512-50100	30	34	34	34	
9	ブレード（ターフカット右）	7A105-9902-2	1	1	1	1	
10	ブレード（ターフカット左）	7C605-5537-1	1	1	1	1	
11	爪取付け部品 1	7C705-5555-1	2	2	2	2	⑫⑬
12	爪取付けナット	64135-9519-3	2	2	2	2	
13	バネ座金	04512-50100	2	2	2	2	
14	ワイヤ，アッシ（14，A）	7C504-55502	1	—	—	—	
14	ワイヤ，アッシ（15，A）	7C505-55502	—	1	—	—	
14	ワイヤ，アッシ（16，A）	7C506-55502	—	—	1	—	
14	ワイヤ，アッシ（17，A）	7C507-55502	—	—	—	1	
15	ワイヤ，アッシ（14，C）	7C504-55582	1	—	—	—	
15	ワイヤ，アッシ（15，C）	7C505-55582	—	1	—	—	
15	ワイヤ，アッシ（16，C）	7C506-55582	—	—	1	—	
15	ワイヤ，アッシ（17，C）	7C507-55582	—	—	—	1	

主な消耗部品一覧表



G-3706A改

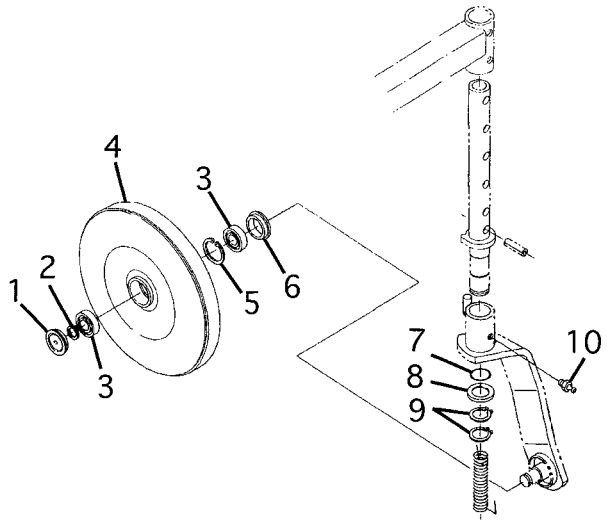
図番	品　　名	品　　番	個数
1	カバー（1，ホゴ）	7C505-5452-1	1



G-4650A

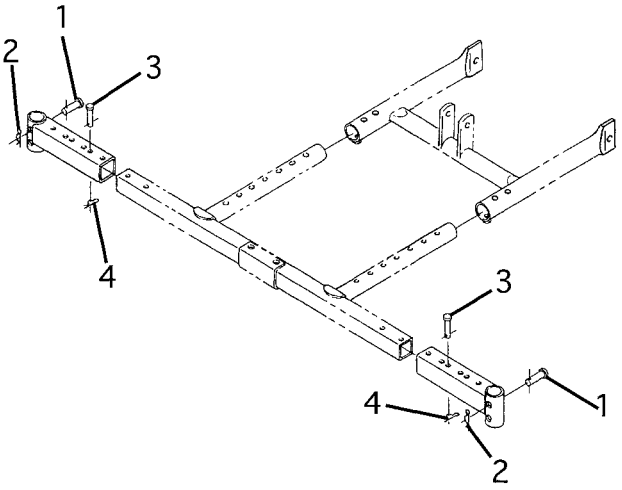
図番	品　　名	品　　番	個数
1	カバー（2，ホゴ）	70155-5527-4	1

◆RL・R仕様

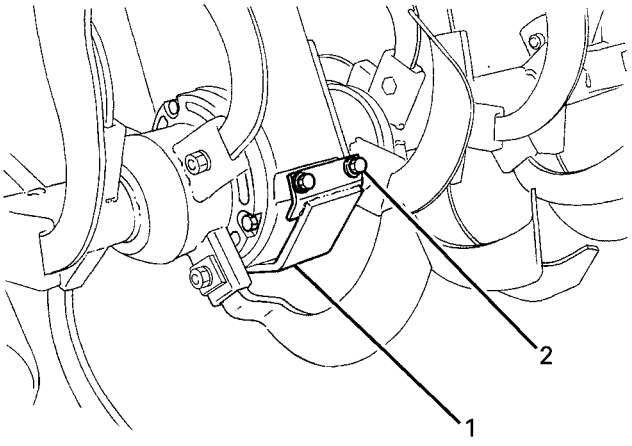


図番	品　　名	品　　番	個数
1	キャップ	70451-5746-1	1
2	軸サークリップ	04612-10200	1
3	ボールベアリング	08131-06004	2
4	後2輪	7A205-5744-1	1
5	穴サークリップ	04611-10420	2
6	オイルシール	7C605-5748-1	1
7	Oリング	04811-50300	1
8	カバー（サークリップ）	70155-5745-2	1
9	軸サークリップ	04612-00340	2
10	グリースニップル	50441-1132-1	1

◆R仕様

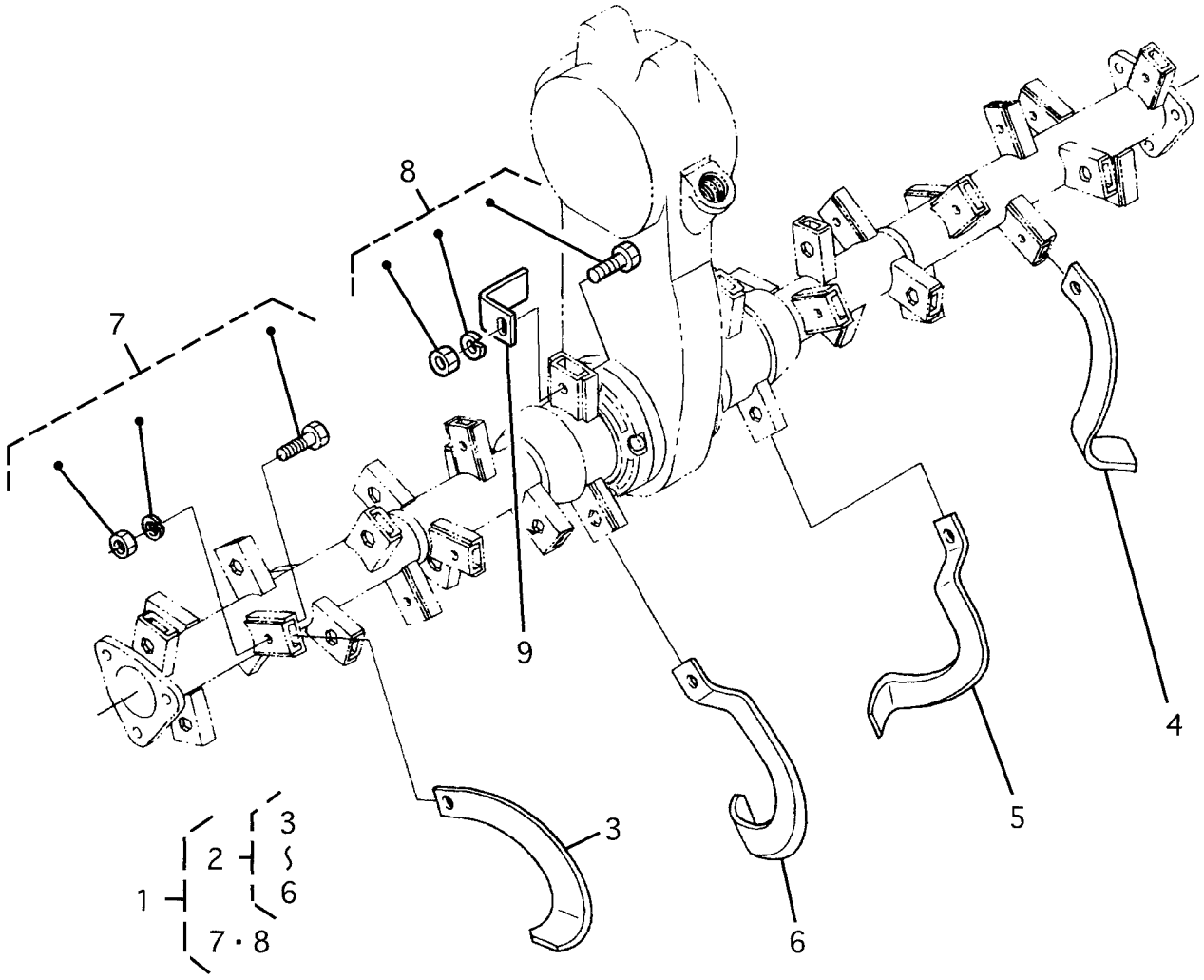


図番	品　　名	品　　番	個数
1	頭付きピン	05122-51060	4
2	スナップピン	70404-5618-3	4
3	ピン	70155-5732-2	4
4	スナップピン	70404-5618-3	4



図番	品　　名	品　　番	個数
1	プロテクタ	70186-5551-1	1
2	ボルト	01133-51016	2

主な消耗部品一覧表



図番	品　　名	品　　番	数　　量	備　　考
			R5T	
1	耕うん爪アッシ（ナタ爪）	7A285-5740-1	1	③～⑧
2	なた爪セット	99032-4910-2	1	③～⑥
3	581号なた爪右	70451-5541-5	18	
4	581号なた爪左	70451-5542-5	18	
5	544号変形爪右	70325-5587-2	1	
6	544号変形爪左	70325-5588-2	1	
7	爪取付け部品 1	70461-5555-1	36	
8	爪取付け部品 1	7C705-5555-1	2	
9	ブレード（ターフカット）	7A285-5511-1	2	

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は まず，購入先へ ご相談ください

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名	担当	電話（　　）　　ー

ご購入日	型式名	区分

車台番号（製造番号）	エンジン型式　　エンジン番号

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

クボタ機械サービス株式会社

北海道営業技術推進部：電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目１番１号
秋田営業技術推進部：電(018)845-1644	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162	〒981-1221	名取市田高字原182番地の１
東京営業技術推進部：電(048)862-1588	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５丁目２番36号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1263	〒950-0992	新潟市上所上１丁目14番15号
金沢営業技術推進部：電(076)275-1121	〒924-0038	松任市下柏野町956-１
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111	〒491-0031	一宮市観音町１番地の１
大阪営業技術推進部：電(06)6470-5860	〒661-8567	尼崎市浜１丁目１番１号
岡山営業技術推進部：電(086)279-4511	〒703-8216	岡山市宍甘275番地
米子営業技術推進部：電(0859)33-5011	〒683-0804	米子市米原７丁目１番１号
株式会社四国クボタ 営業技術課：電(087)874-8500	〒769-0102	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725	〒811-0213	福岡市東区和白丘１丁目７番３号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181	〒861-4147	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１
本社営業技術部：電(072)241-8092	〒590-0823	堺市石津北町64番地

株式会社クボタ

機械札幌事務所：電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目１番１号
機械東日本事務所：電(048)862-1121	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５丁目２番36号
機械西日本事務所：電(06)6470-5970	〒661-8567	尼崎市浜１丁目１番１号
機械福岡事務所：電(092)606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘１丁目７番３号

Kubota

安全宣言

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ

〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
TEL.06-6648-2111
FAX.06-6648-3862

品番　7A205-5752-4